慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ジャニーズのアイドル育成による日本組織論
Sub Title	
Author	王, 旖旎(Wang, Yini) 大藪, 毅(Oyabu, Takeshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2014
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2014年度経営学 第2918号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002014-2918

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（2014　年度）

論文題名

ジャニーズのアイドル育成による日本組織論

指導教員	大藪　毅
副指導教員	齋藤　卓爾
副指導教員	井上　哲浩
副指導教員	

学籍番号	81330234	氏　名	王旖旎

論 文 要 旨

所属ゼミ	大藪 研究会	学籍番号	81330234	氏名	王旖旎オウイニ

（論文題名）

ジャニーズのアイドル育成による日本組織論

（内容の要旨）

日本組織そのものであるジャニーズ事務所は、アイドル育成という点で見れば、日本芸能界の模範となっている。その育成方式は、日本組織論にかかわり、日本社会に浸透でき、日本文化の代表となり、日本でも、海外でも、優れているものである。

日本文化の重要な一環であるアイドル事業は、従来歴史があるものであった。しかし、その発展のバランスには長年間ずっと傾いてきたと見られている。その要因の一つは、育成という概念が欠かれていると思われている。その日本芸能界には、ジャニーズ事務所という破天荒な存在が現れた。アイドルの育成事業をもたらしてきたのは、ジャニーズであった。

ジャニーズのアイドル育成は日本組織におけるものである。その理由は以下の三つとなっている：

１、ジャニーズはアイドル事業に対して、従来の「短期選抜」から、「長期育成」方式に移した。日本従来のアイドルなり形態は、選抜中心の短期育成というものであった。ジャニーズは、欧米の階段式育成方法を中心として活動してきた「宝塚」とは、日本組織における二つの形態である。ジャニーズは「育成中心、グループ重視」の日本伝統的な組織である、「宝塚」は「カリスマ性、マルチスキル性」を中心する外資系企業である。

２、ジャニーズは個人タレントより、グループ性を大事にしてきた。日本組織の真髄は、個人性を大事にした上で、グループにどのように馴染めできるのか、団体として成績を出すのは、一番重要である。グループ内の分業、役割分担、そして最後の統一化、それは凄く時間がかかる育成であるけど、日本組織に対して真髄であるもの。

３、ジャニーズは自社タレントに対して長期雇用制度を使うし、市場に対して、特にファミリー市場である長期市場を狙いてきた。

以上三つの観点を分析し、現在問題を提出した上、将来の方向性を同時に考えるのは、本研究の要旨である。

目次

第一章、研究背景 4
1.1 ・・・日本のアイドル事業発見、背景 4
1.2・・・ジャニーズ事務所の概要、特徴 7
1.3・・・ジャニーズ Jr.制度の概要 9
第二章、問題意識 11
2.1・・・日本のアイドル事業の発展要因と社会影響 11
2.2・・・男女アイドルの発展差 12
2.3・・・男性アイドル発展の傾きと困難さ 13
2.4・・・問題提出 15
第三章、仮説提出とその理由 16
3.1、仮説提出 16
3.2、その仮の理由 16
第四章、検証 17
4.1、日本型組織の特徴 17
4.2、ジャニーズのアイドル育成における日本組織論 19
4.2.1、アイドルの養成：短期選抜→長期育成 20
4. 2. 2、アイドル特徴：個人主義→グループ統合 32
4. 2. 3、アイドル雇用と市場影響：ユリカゴ→墓場（長期雇用形態とその市場影響） 39

第五章、今後の予想 41
5.1、ジャニーズの現状と問題 41
5.1.1、後継者問題 41
5.1.2、市場競争問題 42
5.2、可能対策 45
5.2.1、育成方法の調整 45
5.2.2、組織的の調整 46
5. 3、本研究の限界と今後の方向 48

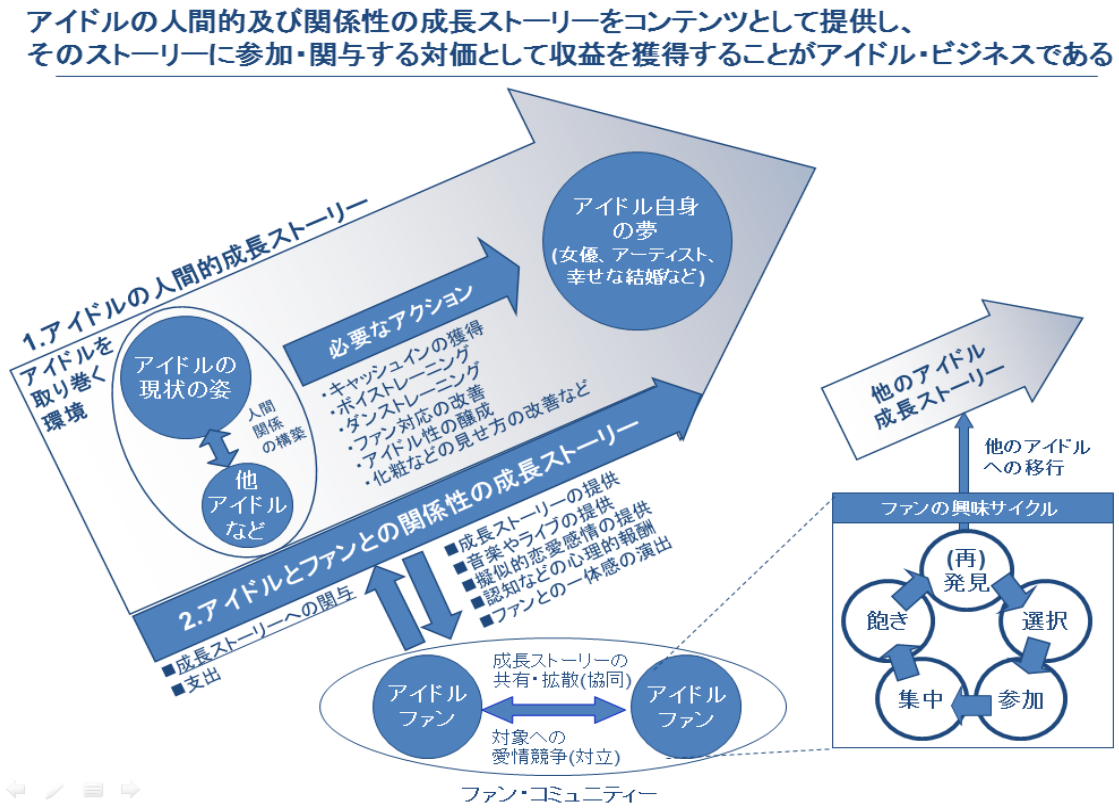
参考文献 49

謝辞 50

第一章、研究背景

本研究をする前、この研究対処としての分野を紹介したいと考えられる。アイドル事業は日本文化の一環と見られ、社会的に大きい影響を与え、日本経済にとって失くすにはいけないものである。

ここで、まずある外資系戦略コンサルタントの視点から見たアイドル・ビジネスという解説を紹介したい。



こう見ていると、アイドル産業は人間性の成長と非常な関係を持っていると見られているので、特に日本という人間性を非常に大事な社会から見ると、アイドル産業の存在は、偶然とは言えない。

1.1 ・・・日本のアイドル事業発見、背景

アイドルというものは、社会にとって、社員しかしないけど、商品しかしない。逆にその属している事務所にとって、社員しかしあり、商品しかしあり。現在社会は、アイドル事業凄く流行ってきて、たくさんの人々は高テクな手段に依存して、一方的アイドル産業に飛び込んで、精神的な場面で重視して、享受している。その逆、その人

間たちは、face to face という伝統的なコミュニケーション能力がだんだん下がってきて、一部の人間は、もうその能力が失っていく傾向になった。

しかし、その一方、その人達のため、アイドル事業の発展は日増しに向上している。日本で「アイドル」という言葉が使われ始めたのは 1970 年代である。1971 年のテレビ番組『第 22 回 NHK 紅白歌合戦』に初出場した南沙織が司会者から "ティーンのアイドル" と紹介されており、この時点で「アイドル」という言葉が使用されている。また、テレビ番組『スター誕生』出身の山口百恵などがデビューする 1970 年代後半に入って、「アイドル」という呼称が芸能人・タレントの総称として一般化するようになった。

アイドル業界は 80 年代に隆盛を極め、90 年代の混乱期を迎えることになる。その中で「アイドル」という言葉の定義は広義化を続け、いまでは多くの意味をはらむ言葉となっている。ここで具体的羅列したいのは二つがあって、まず一はイメージがわきやすいのはポップスを歌っている踊っている歌手である「アイドル歌手」。次に、清純なイメージを持つ若手女優とイケメンと見られる若手俳優を「アイドル俳優」。現在では標準化された普通名詞と化してしまっているのは、ほぼその側面の意味である。

具体的から見ると、女性アイドルの世界で、1980 年代に入り、松田聖子・小泉今日子・中森明菜ら若年層に向けたポップスを主とする歌手が活躍を始め、「アイドル」の定着が見られた。1990 年、歌手活動を中心とするアイドルは Wink、CoCo、ribbon、高橋由美子、東京パフォーマンスドールらの活躍が見られたものの、テレビ歌番組の減少と共に「アイドル冬の時代」・「アイドル氷河期」を迎えた。主に歌手としてデビューした、90 年代中盤から中谷美紀、菅野美穂、加藤紀子ら、終盤で小室哲哉のプロデュースによる華原朋美や篠原涼子などのアイドルないしアイドル出身者たち、安室奈美恵や SPEED などの沖縄アクターズスクール出身者など、90 年代からの女性アイドルはほぼテレビメディアを利用し露出して、歌手や女優に転向した。

一方、男性世界で 1970 年代の郷ひろみ、西城秀樹、野口五郎から成る「新御三家」、1979 年の『3 年 B 組金八先生』で生徒を演じた田原俊彦、近藤真彦、野村義男から成るたのきんトリオ（ジャニーズ事務所）がソロ歌手デビューし、次々とヒットを飛ばした。その後、本木雅弘、薬丸裕英、布川敏和から成るシブがき隊や、少年隊など、人気グループを次々と送り出した。そして、90 年代は、主にジャニーズ事務所が送り出したグループの時代であり、前半までは、光 GENJI が他を圧倒する人気を見せ、中盤からは、デビュー当初からバラエティー分野での活躍が目立った SMAP が現在

に至る人気を確立し、更に、KinKi Kids、TOKIO、V6 など後続者も人気を得て自身が冠バラエティ番組も持つようになった。また、木村拓哉を筆頭にメンバー個人も俳優としても成功した。当然そういったジャニーズ全盛の中、ヴィジョンファクトリー系の DA PUMP や w-inds.なども人気を集めた。

2000 年後、女性アイドルの盛期と見られ、グループとして活動していたモーニング娘や BerryZ 工房や Perfume など、個人歌手としての松浦亜弥や浜崎あゆみたち、若手女優としての上戸彩や新垣結衣や戸田恵梨香など、2000 年前半から凄く知名度向上した。そして、2000 年代後半から今ましかし奇跡と呼ばれている AKB48 ブーム、2010 代から姉妹グループの NMB48、SKE48 など、そして正式的なライバルとしての乃木坂 46、今人気上昇中のももいろクローバーZ などの新生女性アイドルグループ、百家争鳴の状態になって、今すべでの若手男性女性の中人気が保っている。

逆に、男性の世界、90 年代でデビューしたグループの成長のお蔭で，ジャニーズの寡占形勢は 2000 年前半しかしうぶれなくなって、SMAP、TOKIO、KINKI、V6 の好プレーは続々テレビなどのメディアで見られていた。そして、当時黄金時代と呼ばれていたジャニーズ Jr.達は、視聴者の目の前で凄く活躍していて、会社はテレビ番組、ラジオ番組、Jr.コンサート、雑誌、新聞全て利用して、その子たちを世間に売るようとした。その後、その子たちの中から結成された若手グループの嵐やタッキー＆翼、NEWS 関ジャニ KAT-TUN なども、ジャニーズ帝国を守ってあげた。2000 年後半から、Hey! Say! JUMP をはじめ、NYC、Kis-My-Ft2、Sexy Zone、ABC-Z そして最近のジャニーズ WEST、そのグループたちは続々デビューして、そして生田斗真、風間俊介、屋良朝幸など CD デビューではなく、個人俳優や役者としてジャニーズ事務局で存続していたタレントたちを含め、先輩アイドルグループや個人と一緒にジャニーズ帝国を構築して行こうと強い思いを持って、頑張ってこの世界で歩いていく。他にはクイズ番組から無知を逆手に売りにする羞恥心や、「俳優集団」を称する D-BOYS、或いは、WaT の小池徹平や溝端淳平ら、また、ウルトラマンシリーズ出身の杉浦太陽、仮面ライダーシリーズ出身のオダギリジョーや要潤、水嶋ヒロや佐藤健、スーパー戦隊シリーズ出身の松坂桃李がブレイクした。かつて 1990 年代に一世を風靡した ZOO のメンバーだった HIRO を中心に結成された EXILE、韓流ブームによる東方神起などの K-POP 組、バラエティーからでなく、音楽の方面から人気を博す事例も再び見られていた。

1.2・・・ジャニーズ事務所の概要、特徴

アイドル事業の発展から見ると、2000 年以後、特にこの 5.6 年の間凄く変わってきて、その理由は当然市場ニーズと関係あり、業界全体の発展とも関係あり、社会性経済性の変化によって、視聴者の観点も変わり、特にファン達の行動が凄く変わってきた。その要素に合わせ、アイドル業界の動きも変動し、そのためたくさん異なるパターンのアイドル形態が生まれて、アイドルの寿命の長さも不一、何年間売れる人もいるし、急にブレークしてすぐ人気なくなった人もいる。正直、今のアイドル業界では、乱戦しかしあり、平等しかしあり、いわゆる：適者生存の世界である。

ジャニーズの歴史はそんなに長くないけど、しかし 1960 年代からの 50 何年間の間、凄く変わってきた。この変化はジャニーズ本社だけに対してではなく、ジャニーズの従業員たちと関連者に対しても、また文化事業やメディア事業に対しても、放送事業や出版事業に対しても、そして日本全般の社会や国民に対しても、重要な意義がありそうと思われている。

遡りと思って、ジャニーズ (Johnny's)は、かつてジャニーズ事務所から最初にデビューを飾った日本のアイドルグループである。便宜上「初代ジャニーズ」・「元祖ジャニーズ」と呼ばれることもある。 1962 年 4 月結成。1967 年 11 月 20 日解散。ジャニーズはジャニーズ事務所の略称しかしあり、ジャニーズ事務所所属タレントの総称。派生語として「ジャニーズ系」という言葉がある。

喜多川擴（ジャニー喜多川）が渡米したとき様々なステージを観ている内に、エンターテインメントに感銘を受けたという説であり、帰国後作られた会社である。最初は、ジャニーさんは 4 名の野球少年をコーチして、ある日その仲良し 4 人組を誘い、映画『ウエスト・サイド物語』を観せに連れて行く。そして、映画に感動を覚えた少年たちが同年 4 月に「ジャニーズ」を結成したとされている。これは、ジャニーズ事務所の最初のタレントと呼ばれている。それから 50 年ジャニーズは伝統的に男性アイドルの育成に注力している。したがって事務所はほかの会社と比べで、以下の特別な特徴がある。

１、男性のみ、CD デビュー：未来のアイドルを目指すのため、事務所は 10 代の男の子たちを採用され、ジャニーズ Jr. として育成している。また研音と並び、全ての入所者からレッスン料などは一切徴収しない。ジャニーズ事務所では、グループが結成され、テレビなどで歌唱したり単独コンサートを開催したりしても、社長が認めなけ

れば CD デビューはできないと、デビューとは言えない。（例外は A.B.C-Z が 2012 年に DVD を発売した際は「DVD デビュー」としている）。なお、CD デビューはしないが俳優として活動する者もおり、生田斗真のように俳優業だけでジャニーズ Jr. を卒業した例もある。

２、肖像権・著作権の管理には厳しい姿勢を採る：レコード会社・出演映画・ドラマ・CM・音楽番組の公式ウェブサイトや新聞の電子版上で、所属タレントの顔写真や動画を使用することを制限している。また、『ミュージックステーション』や『Music Lovers』のように「番組の放送終了後に、出演アーティストによる自筆メッセージがサイトに掲載される」場合しかし、所属タレントによる自筆メッセージは掲載されていない。例外はいくつしかおられない。

３、所属タレントの声の露出も制限される場合がある：例えば、ラジオ番組しかし、2008 年から 2010 年まで TBS ラジオで放送していた番組枠『JUNK ZERO』のうち、城島茂が担当した『城島茂のどっち派?!』のみポッドキャスト配信が行われなかった。

４、賞レースへの不参加方針：「所属タレントに優劣をつけさせない」との方針により、「候補者を何人か選び、その中から大賞やグランプリ獲得者を決める」という形式の賞レースへの参加は原則辞退している。受け取るのはそのタレントに直接賞を贈呈するもの（例として「ベストジーニスト」）や外国での賞のみ。

５、コンサート：所属タレントのコンサート・舞台等の主催、企画、チケット販売などを行う「ヤングコミュニケーション コンサート事務局」が設立されており、「ジャニーズチケット販売約款」という規約が作られている。

６、所属タレント全体でのスケジュール管理所属タレントがレギュラー出演している番組の裏番組には、原則として改編期などでその番組が休止となる時しか出演しなかったが、後にバラエティ番組とドラマ、バラエティ番組同士で出演時間が重なることも増えた。

７、ファンクラブ「ジャニーズファミリークラブ」を母体として、各タレントのファンクラブが作られている。またファンクラブが結成されていないタレントについては「情報局（ジャニーズ Jr.）」「ジャニーズアーティストクラブ（解散したグループのメンバー）」がタレントの情報をハガキで提供している。

他にもあるけど、上記のは一般的にと見られているジャニーズ像である。当然、アイドルとして、私生活の方面で、交際結婚などの女性関係、違法反則などの不祥事ことも、事務所から認められない場合は一番多い。

1.3・・・ジャニーズ Jr.制度の概要

その中に、一番世間に注目されるのは、無論ジャニーズ Jr. のことと見られている。ジャニーズ Jr. は、いわゆるジャニーズタレントではなく、研修生みたいな存在である。通常 10 代で事務所に応募して、採用されたら、レッスンを受け、雑誌やテレビのメディアを通して、タレントとして活動している。普通その年で活躍できるのは、ほぼスカウトされ、そしてもっと小さい頃からずっとテレビで活躍続けてきた童星なのに、ジャニーズはその世代の男の子たち一つ凄いプラットフォームを与え、将来の人気モノやスターを育ちたい。

Jr. の応募パターンは普通二つに分けって、一つは自己応募、自分が履歴書を書き、事務所に応募する。もう一つは家族、親族、友達もしくは同級生（特に女性が多い）がその人の履歴書と写真を事務所に送って、その中応募者の勝手で、本人に相談したことがなかった場合もあった。こう見れば、出世意識が強い子と弱い子は、事務所に入り時点で自動的に両派に分けた。その結果、この後のやりがいとテレビや雑誌での表現は全然違った。当然凄くアピールしたい子は必ず売れるわけではなく、黙々とこの仕事に興味がなさそうな子はあるきっかけで大ブレークになった場合もたくさんあった。芸能界では、努力する人は成功できる場所ではない。逆に、成功したい人は必ず凄い努力派じゃないといけない。Jr. の子達は、その年から、ずっと頑張って続かなけらばならない。ジャニーズの Jr. 制度は、多分その子達に上記のルールを教えあげたいのため、作られたものであった。

Jr. の活動できる場所は定められている。ジャニーズ事務所は、テレビ局と連携があって、所有されている番組の中、Jr. 達を出させて、最初は有名な司会者を雇って、流れを仕切って、Jr. 達はただ自己アピールだけだ。それから、だんだんスタッフさんは手が離れて、Jr. 達は自分が脚本を書いて、番組の流れが仕切って、自分の番組として制作して、さらに表演者から創作者になってきた。アイドルオンステージ、愛 LOVE ジュニア、ミュージック・ジャンプ、そして 8 時だ J は Jr. の黄金時代の定番番組と見られていた。

その後、ザ少年倶楽部やガキバラ帝国2000!や裸の少年そしてYa-Ya-yahは、Jr.だけではなく、当時デビューしたばかりの嵐やタッキー&翼とそのあとデビューしたNEWS、関ジャニとKAT-TUN、そして生田斗真風間俊介達と一緒に番組をやってきて、歴代で一番番組数が多くて、番組寿命も長い世代となってきた。その中に、ザ少年倶楽部は今ましかしNHKBSで放送されている。その後、百識王やヤンヤンJUMPの認知度はそんなに高くないけど、存続としてやってきた。しかし、参加したメンバーのHey!Say!Jumpはもうデビューしてしまって、Jr.とは言えなかった。

最近のジャニーズJr.ランドとガムシャラは、またJr.番組として復活してきたので、ジャニーズのファンや業界者に対して、久々期待できることになった。

以下、現在ジャニーズJr.がやっているTV番組である。(ザ少年倶楽部を含め)

毎週月～金曜	13:30-14:00	シンデレラデート (フジテレビ系)	諸星翔希
毎週月～木曜	18:55-19:25	Rの法則 (NHK Eテレ(教育テレビ))	今野貴之 諸星翔希 ジェシー 田中樹 村木亮太 菅田琳寧 石田直也 岡本カウアン
毎週月曜	20:00-20:29	ハートネットTV 「ブレイクスルー」 (NHK Eテレ) 再放送:翌(月)13:05-13:34	風間俊介
毎週火曜 ★2015/1/6(火) スタート!	22:00-22:54	鉄の戦争 (関西テレビ・フジテレビ系) ※初回のみ21:00から、2時間スペシャル	高田翔
毎週木曜	20:00-20:43	木曜時代劇「ぼんくら」 (NHK総合)	風間俊介
毎週金曜	13:55-15:50	ゴゴスマ～GOGO!Smile!～ (CBCテレビ)	ふぉ～ゆ～
毎週金曜	23:15-24:15	黒服物語 (テレビ朝日系)	安井謙太郎
毎週土曜	25:45-26:15	ガムシャラ! (テレビ朝日系)	ジャニーズJr.

毎週土曜深夜放送 ★2015年1月スタート!		お兄ちゃん、ガチャ (日本テレビ)	岸優太 宮近海斗 仲田拡輝 吉澤閑也 梶山朝日 原嘉孝 目黒蓮 <お兄ちゃんゲスト> 松倉海斗 深澤辰哉 阿部顕嵐 森田美勇人 京本大我 松田元太 岩本照 玉元風海人
毎週日曜	11:45 - 12:45	スクール革命! (日本テレビ系)	高地優吾
第1・第2水曜	20:00-20:59	ザ少年倶楽部 (NHK-BSプレミアム) [再放送] 毎月第1・第2(金)18:00-18:59 ※番組編成の都合により、放送週が変更になる場合がございます。	ジャニーズJr.
第4水曜	20:00-20:59	ザ少年倶楽部セレクションスペシャル (NHK-BSプレミアム) [再放送] 毎月第4(金)18:00-18:59 ★毎月オンエアした名場面をピックアップしてお届け!	ジャニーズJr.

第二章、問題意識

日本のアイドル文化を発展して、今まで何十年かかっていると見られているので、良い面と悪い面も両方出ていたはずだ。しかしその中、ジャニーズは一方的に順風満帆に拡大になって、ジャニーズ帝国と呼ばれているので、その理由は一体なぜでしょうか？ファンとしての筆者は、今までずっと疑問を抱えていて来た。

2.1・・・日本のアイドル事業の発展要因と社会影響

日本の文化におけるアイドルは、特に魅力的で可愛い、もしくはかっこいいとみなされる人物を指し、例えばポップス歌手、役者、テレビタレント、雑誌や広告などに掲載される写真モデルなど、数か月から数年にわたって継続的にマスメディアに登場する。

日本の文化・言語における「アイドル」の語源となった英語の idol の本来の辞書的な意味は、偶像、すなわち目に見えない（不可視な）崇拝や信仰・信心・信奉・信条などの対象を可視化（目に見えるように）した、絵画や彫刻などのことであり、代表的な用法に偶像崇拝、偶像破壊などが見られる。その転用・発展・変化の結果、アメリカで「若い人気者」としての意味で 1927 年に「マイ・ブルーヘブン」をヒットさせた歌手のルディ・ヴァリーや 1940 年代に「女学生のアイドル(bobby-soxer’s idol)」と呼ばれて熱狂的な人気を生んだフランク・シナトラらが「idol」と呼ばれ始め、デビュー時のエルヴィス・プレスリー（1950 年代）やビートルズ（1960 年代）らも「アイドル」として認知されていた。先駆的存在として、明治期の女義太夫が挙げられる。

日本のアイドル文化と社会風潮は、日本特別のものである。特に、日本のアイドルグループという存在は、欧米ではあまりないという現状である。確かに、欧米しかしアイドル文化や流行文化が存在してるけど、実にに日本とは違い存在である。具体的に言うと、欧米での流行文化は、ほとんど個人のパフォーマンスとして世間に受け入れるはずである。その理由は、社会性と人間性から考えると、それは日本の伝統的な文化や伝統的の社会性繋がっている。心理学者の内藤誼人先生は以下の言葉を言いた。

「確かに欧米ではアイドルは日本ほど存在しません。なぜなら日本人は集団主義で、

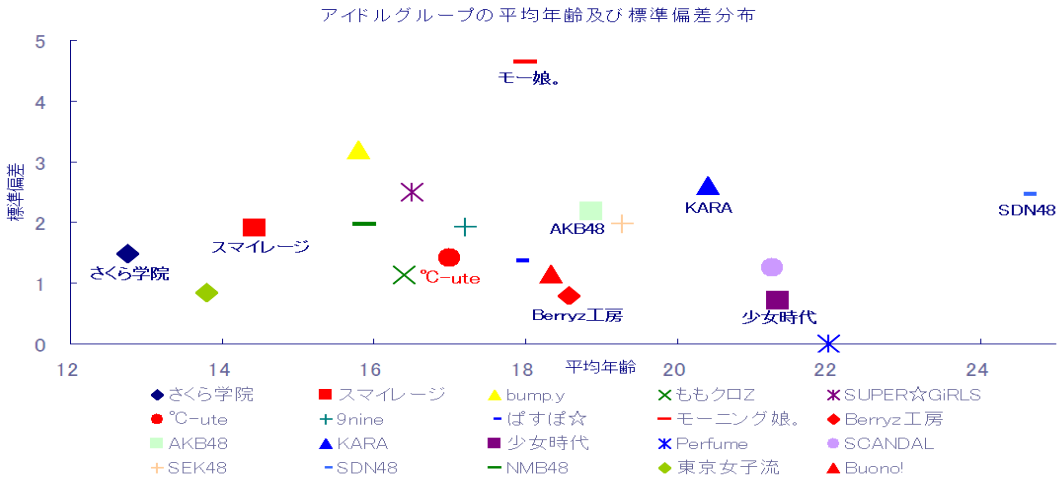
欧米は個人主義の文化したがってです。個人主義の国では、一人のヒーロー・ヒロインがその他大勢の人を引っ張って行くという図式が好まれます。一方、集団主義思考が強い日本人は自分自身もグループが大好きなので、『アイドルグループ』が受け入れられやすいのだと思います」

日本人のメンタリティは個人よりも集団を受け入れやすいので、かつて人気のあったアイドルも、個人の活動に見えて「御三家」「同期」とくくられていたりしました。これもある種のグループといえます。日本人がグループを好むことは分かりましたが、アイドルグループが人気である理由は他にもあるのでしょうか。

また、その中から、異なっている特徴と人間性が出てくるので、グループに馴染み、グループから脱、それの観点は、日本組織そのものと考えられるので、日本のアイドルグループは実に日本組織の反映と見られている。どのようにそのアイドルグループを運営するのか、どのようにそのアイドルグループを育成するのか、どのようにそのアイドルグループ内で生きていくのか、どのようにそのアイドルグループから世間にアピールするのか、そのような問題は、事務所だけではなく、アイドルその人本人も、必死に感がるべきだと考えられる。それこそ、日本で受けられることができ、むしろ世界に飛びだつことができるの可能性がある。

2.2・・・男女アイドルの発展差

ネットで調べると、女性アイドルのグループはたくさん存在しているのに、男性の方は殆ど出てこなかった。例としてみると、以下は一部の女性アイドルの分布である。



こう見ると、日本のアイドル業界から見ると、アイドルパターンは昔よくあるのは歌

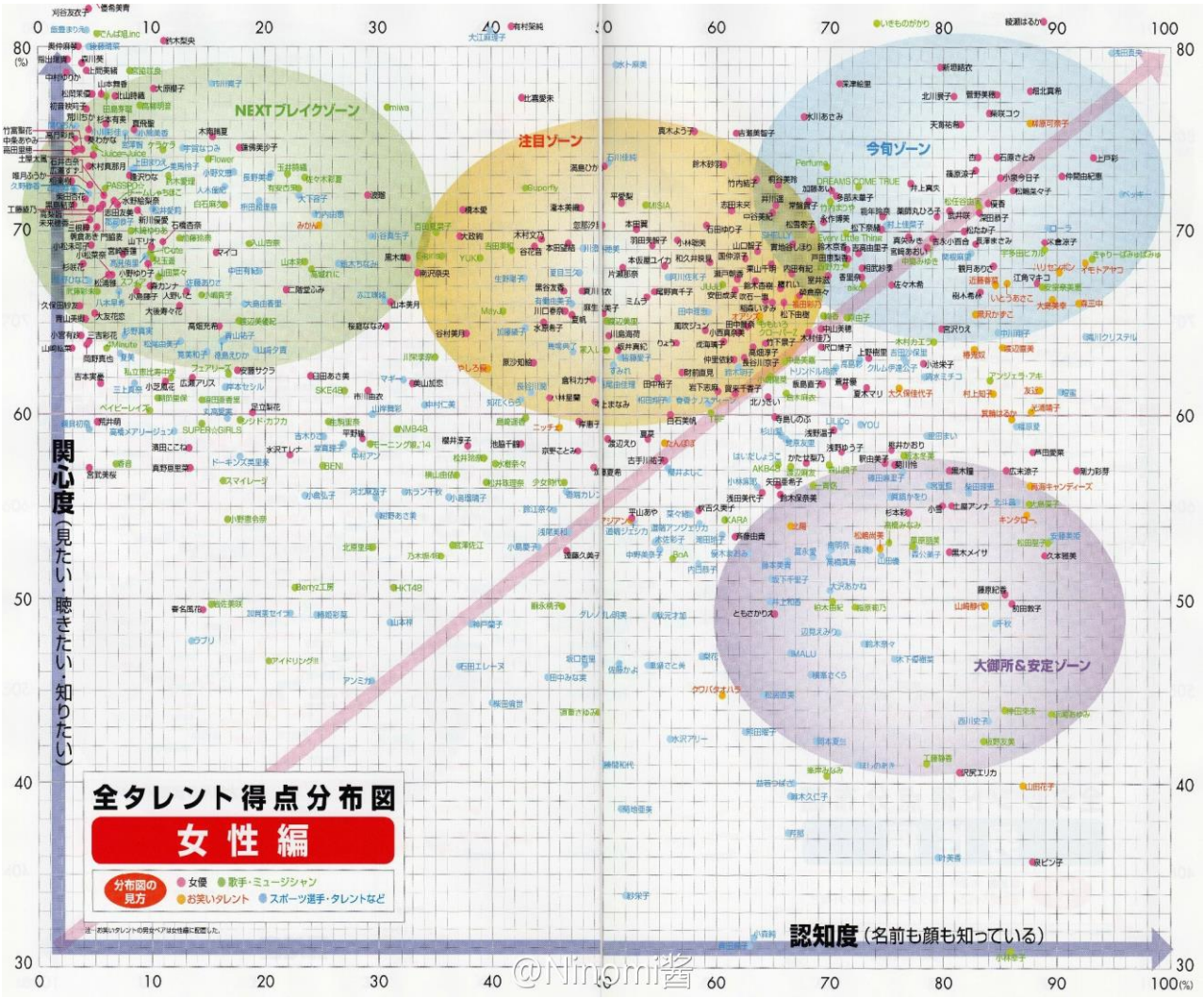
手や役者という場合であったので、特に女性の場合は、若手歌手や女優の中スターになり人が凄く多かった。しかし、近年グループとして活動してきた歌手しかしなく役者しかしないアイドル像がでできて、男性はジャニーズの SMAP や嵐など、女性はモーニング娘や AKB48 とか、この人たちは、シングルやアルバムが年々出して、歌番組に出て、同時にその中テレビドラマや映画に出演するひともあって、専業歌手しかしないし、専業役者しかしない。これらの仕事は、アイドルと呼ばれている。

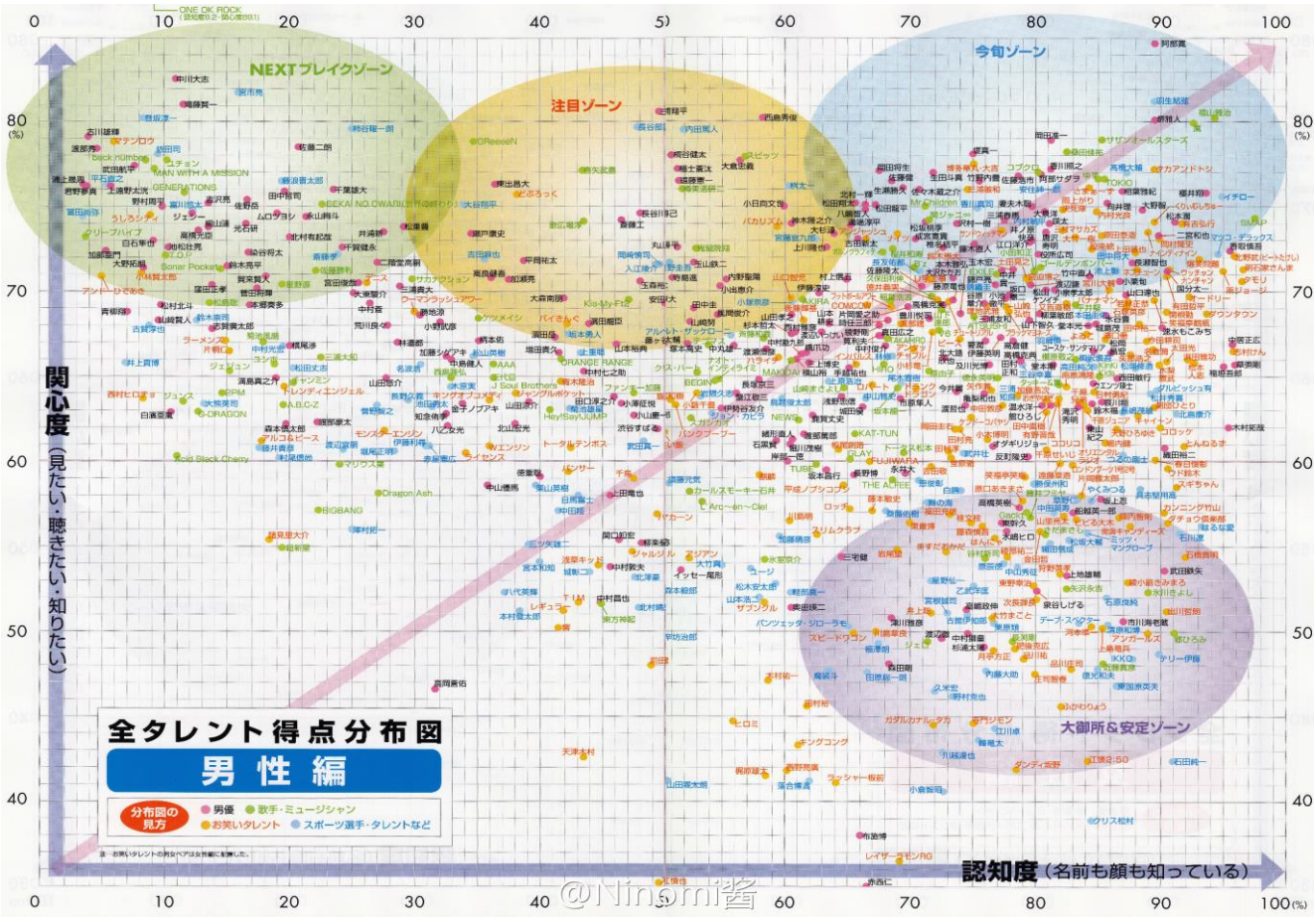
現在の日本アイドル業界は、実際の発展差は激しく存在している。当然歌手や役者などの個人パフォーマンサーの数はそのほど激しくないけど、アイドルグループとしては、女子の方が圧倒的に存在している。例え、AKB グループ、乃木坂、モーニング娘、E-girls、ももいろクローバーz などのいろいろグループが続々出てきた。その一方、男性の方は、ジャニーズ事務所属のグループ以外、EXILE グループしか、余りにもないの状態になっている。日本の男性アイドルグループの数は、女性と比べると、遙かに少ない。具体的の理由ははっきり言えないけれども、実際その中、ジャニーズ事務所である寡占のような存在しているゆえ、その市場は辛くなってしまった。なぜなら、一番手が出ていたうえ、その業界として、模倣は難しくなった。特に人材世界、特に芸能界、特にアイドル産業。

2.3・・・男性アイドル発展の傾きと困難さ

アイドルは、今の日本社会で見ると、確かに歌ったり踊ったりしているの美男美女集団と見られているけど、その流星のような存在時間も事実の一つである。芸能界は厳しいと見られているのダントツの理由は、更迭の速さである。世間の好みはころころかわるものであるので、どのようにその好みを掴み、止まり、また変えさせるのは、全てのアイドルの夢だと考えられる。いわゆる、世間の目を自分に止まらせ、集中させることができると、自分の人気と競争優位性を保つことができる。しかし、それは確実に難しいことである。特に、男性アイドルに対して。

この間、『日経エンタテイメント！』で恒例のタレントパワーランキング 2014 が発表されていました。図表は以下となっており、ご覧になってください。


全タレント得点分布図
女性編
分布図の見方
女優
歌手・ミュージシャン
お笑いタレント
スポーツ選手・タレントなど
NEXTブレイクゾーン
注目ゾーン
今旬ゾーン
大御所&安定ゾーン
関心度（見たい・聴きたい・知りたい）
認知度（名前も顔も知っている）
@Ninomi酱


全タレント得点分布図
男性編
分布図の見方
男優
歌手・ミュージシャン
お笑いタレント
スポーツ選手・タレントなど
NEXTブレイクゾーン
注目ゾーン
今旬ゾーン
大御所&安定ゾーン
関心度（見たい・聴きたい・知りたい）
認知度（名前も顔も知っている）
@Ninomi酱

この二つの図表から見ると、女性と男性タレントの分散がはっきりわかってきた。女性の場合は、知名度と関心度全部高いのは、全て女優さんと見られている。特に堀北真希、新垣結衣ぐらいの若手女優のランキングは非常に高くなっている。認知度が高くて関心度が低い人はお笑いタレントがダントツ。一方、アイドルグループのほうに対して、関心度が非常に高くても認知度が低くなっている。しかし、全体から見ると、女性の方は、アイドルグループの割合が結構高いと考えられる。当然相当のアイドルグループの認知度や関心度はそのほど高くないけど、今後の活動も期待することもできる。

逆に、男性の図表で見ると、関心度もしく認知度が高い人は、ほぼジャニーズとお笑い大手いである。しかし、その中、その両面相対的高いのポジションとなっている人たちは、ほぼ俳優さんと見られている。ジャニーズとなっても、役者さんに一筋務めっている岡田准一や生田斗真、また櫻井などニュースキャスターを務めっているごくわずか人数と分かっている。割と、男性アイドルはアイドルだけではなく、ほぼ総合的のメディア参入者となれないと、売れないの可能性があると見られている。したがって、ジャニーズのアイドルしかし、色々な分野を参加していないの人たちは、あまり人気が出ないと見られている。

2.4・・・問題提出

そこで、問題が浮かんだ：そういう乱戦の中、ジャニーズが人気を保つ理由は何？

当然先の分析で、ジャニーズはその業界を支配していると見られている。それはジャニーズの人気が保つことができる一つの重要な要因であるけれども、しかし寡占だけでの存在としては、その優位性と困難さも当然併存しているはずだ。また、寡占できる理由もその業界の特性であるものなので、結論としては、ジャニーズは優れているこそ、その業界を支配できるし、ジャニーズのアイドル達は人気を保つできる。そして、本研究は、組織システム的に、ジャニーズの人気保つ理由を探り出したい。

第三章、仮説提出とその理由

3.1、仮説提出

ここで、筆者はジャニーズがこのアイドル乱戦の中で人気を保つできる理由の仮説を述べる。それは：

１、ジャニーズは伝統的な日本的システムである

２、ジャニーズのアイドル育成は日本組織におけるもの

3.2、その仮の理由

そういう仮説を依存した上、ジャニーズは日本文化の浸透できる事実を見られているので、ジャニーズは日本社会の重大な影響を与えることも理解でき、そうすると、日本人や日本社会に完全受け入れるため、ジャニーズは日本でのアイドル業界でトップにもなれるし、人気はずっと保つこともできる。

当然、これはいわゆる仮説なので、これから、筆者はジャニーズ事務所の組織システムと育成システムの視点から、分析してみる。以下、ジャニーズ組織構造である。

表・話・編・歴	ジャニーズ事務所(カテゴリ)
役員	代表取締役社長:ジャニー喜多川 | 代表取締役副社長:メリー喜多川 | 代表取締役副社長:藤島ジュリー景子
所属タレント	近藤真彦 | 内海光司 | 佐藤アツヒロ | 岡本健一 | 風間俊介 | 長谷川稀世 | 生田斗真 | 山下智久 | 内博貴 | 中山優馬 | ジャニーズJr. | 関西ジャニーズJr. | 企画ユニット
少年隊	錦織一清 | 植草克秀 | 東山紀之
SMAP	中居正広 | 木村拓哉 | 稲垣吾郎 | 草彅剛 | 香取慎吾
TOKIO	城島茂 | 山口達也 | 国分太一 | 松岡昌宏 | 長瀬智也
V6	20th Century: 坂本昌行 | 長野博 | 井ノ原快彦
	Coming Century: 森田剛 | 三宅健 | 岡田准一
KinKi Kids	堂本光一 | 堂本剛
嵐	大野智 | 櫻井翔 | 相葉雅紀 | 二宮和也 | 松本潤
タッキー&翼	滝沢秀明 | 今井翼
NEWS	小山慶一郎 | 増田貴久 | 加藤シゲアキ | 手越祐也
関ジャニ∞	横山裕 | 渋谷すばる | 村上信五 | 丸山隆平 | 安田章大 | 錦戸亮 | 大倉忠義
KAT-TUN	亀梨和也 | 田口淳之介 | 上田竜也 | 中丸雄一
Hey! Say! JUMP	Hey! Say! 7: 山田涼介 | 知念侑李 | 中島裕翔 | 岡本圭人 | 森本龍太郎
	Hey! Say! BEST: 有岡大貴 | 高木雄也 | 伊野尾慧 | 八乙女光 | 薮宏太
NYC	中山優馬 | 山田涼介 | 知念侑李
Kis-My-Ft2	北山宏光 | 千賀健永 | 宮田俊哉 | 横尾渉 | 藤ヶ谷太輔 | 玉森裕太 | 二階堂高嗣
Sexy Zone	中島健人 | 菊池風磨 | 佐藤勝利 | 松島聡 | マリウス葉
A.B.C-Z	五関晃一 | 戸塚祥太 | 塚田僚一 | 河合郁人 | 橋本良亮
ジャニーズWEST	中間淳太 | 濱田崇裕 | 桐山照史 | 重岡大毅 | 神山智洋 | 森井流星 | 小瀧望
関連会社	ジャニーズ・エンタテイメント | ジェイ・ストーム | 東京グローブ座 | ジェイ・ドリーム | ジャニーズファミリークラブ | ヤングコミュニケーション コンサート事務局
過去	過去の事務所所属者 | Jr.過去のグループ(1980年以前) | Jr.過去のグループ(1990年代) | Jr.過去のグループ(2000年代) | 過去のバックバンドグループ | OBによるグループ
一覧	タイアップ一覧 | ジャニーズJr.一覧
関連項目	藤島亮輔 | 森光子 | NO BORDER | ジャニーズカウントダウンライブ | ジャニーズ大運動会 | Marching J | 金星スターズ

株式会社ジャニーズ事務所
Johnny & Associates, Inc

ジャニーズ事務所

種類 株式会社
略称 ジャニーズ
本社所在地 日本
〒107-0052
東京都港区赤坂8丁目11番20号
北緯35度40分6.6秒 東経139度43分43.8秒
設立 1962年6月創業
1975年1月30日法人登記
業種 芸能プロダクション
代表者 代表取締役社長 ジャニー喜多川(喜多川擁)
資本金 80億円
売上高 非公開
主要株主 ジャニー喜多川60%
藤島メリー泰子10%
伊豆喜久江10%
藤島ジュリー景子10%
主要子会社 ジャニーズ・エンタテイメント
ジェイ・ストーム
ジェイ・ドリーム
ヤングコミュニケーション
株式会社東京・新・グローブ座
外部リンク Johnny's net
テンプレートを表示

第四章、検証

4.1、日本型組織の特徴

仮説で述べた理由の第一は、ジャニーズは伝統的な日本的システムであるものなので、したがってまず、日本伝統的なシステムは一体どんなものなのか、ここで簡略的に紹介する。

アメリカの経営学者と経済学者、ジェームズ・アベグレン（James Christian Abegglen、1926 年 －2007 年 5 月 2 日）は、日本企業の経営手法を「日本的経営」として分析し、戦後の日本の企業の発展の源泉が、「終身雇用」、「年功序列」、「企業内組合」にある三つのことをつきとめた。それは、日本伝統的な経営に支える「三本の柱」というものと見られている。通称日本経営における「三種の神器」。また、その中、今も日本経営に対して重要なポイントとしてのもの、アベグレンは「終身雇用」という言葉を生み出した。

この「三本の柱」は、長年間ずっと日本の経営システムとして活躍してきた。日本伝統経営の象徴と見られているので、日本全国に浸透し、海外しかしマネされた会社がたくさん存在しているし、誠に日本の経営そのものだと認証された。その中、「終身雇用」は今にも多くの日本組織にとして廃棄できないシステムの一つとして、日本社会や日本文化と日本人間性の象徴であるもの。社員は会社に全力に捧げ、会社は社員のことを守り、会社は社員に対してもう一つの家庭と見られているし、社員は会社にとって失うことはできないものなので、支えたり、支えられたり、ウィンウィン状態になったら、お互いにメリットを貰え、会社の発展もできるはずだ。当然、現代の経営状態に関するシステムの中に、終身雇用はもはや適用できないものとずっと提出してきたけど、完全に廃棄するとはできない。むしろ廃棄したら、逆に会社として、日本経済として大きいな悪影響に与えられるの可能性がある。「成果主義」ばかり中心し、欧米をマネし、転職世界になると、日本社会や日本経済に対して、本当に適当なのか？結果は無論、日本的な経営にとっても、日本的な経済や社会性に対しても、安全な長期雇用はやはり向いているものだ。当然「終身雇用」とは言えないけど、希望があれば、夢ではないと確認できる。

また「年功序列」は、今の日本多くの会社の中、正式的なルールとしてもう存在していないけど、しかし、それは常識的なものとして、まだまだ日本人の心の中に残っているので、既に廃棄でないルールになっておいた。当然能力主義を重視された理由で、

すべでの場合に「年功序列」が適当なものとは言えないけど、日系企業の中に最も注意すべき人間関係の場面で、「年功序列」はまだまだ重要であるものと見られている。

三つめは「企業内組合」である。企業内組合とは、企業または事業所別に組織された組合で、組合員の資格が原則として企業の雇用者に限定されています。日本のほとんどの組合がこの形態をとっています。このため、御用組合化する傾向が強く、労働者の権利主張、労働条件の向上を目指すというより、会社労務の下請け機関、二重管理システムと批判されています。簡単に言うと、労働者を守るため、もう一つの組織の存在が必要と見られていた。

以上の「三本の柱」は、昔伝統的な日本経営に無くしてはいけないものと見られている。現在、その時代の流れとともに、経営形態も変わってきた。中心は当然その三つの観点であるものなのに、表現形態はもう既に別物に移った。簡単に纏めると：
以下の四つになった。
１、組織の特徴：共通の目標、分業と整合のメカニズム　（組織構造のタイプ）
２、雇用形態の特徴（雇用期間、形態、組合）
３、日本集団の特徴（集団意識）
４、集団間の競争と協調
こういう形態に見ると、現代日本系企業の全体像を既に表してきた。それは、根本的の日本組織、日本経営システムそのものである。

現代日本組織の特徴の中、共通目標と分業整合のメカニズムは現代日本組織の中特に重視されているものと見られている。これは、先説明された「三本の柱」の中ではなかったのものである。しかし、これは経営の本質としてさらに重要なものである。会社は発展のため、一定の目標を設置すべきである。その目標に達成するのため、会社全員は頑張っているはずだ。けれども、社員の能力は違い、市場の対応もそれぞれであるので、一人で全ての職務や業務を担当するのは、当然無理なものである。その時、分業化は凄く重要と見られて、役割分担して、最後整合して、そのメカニズムは日本系企業に対して、現代経営の黒柱とは過言ではないの可能性がある。

現代日本系経営の中、雇用形態はまだまだ重視されているものである。当然伝統の「終身雇用」はもう完全にルールとして廃棄されたのに、代わりには「長期雇用」というもっと柔軟的な雇用形態が導入されていた。その一方で、更に柔軟的な「非正式雇用」制度も含め、短期雇用も採用形態の一部として活躍している。労働者に要求に拘り、現代経営は人本主義のそのものである。

他の二つは、日本系企業が日本性を表わしているものと見られている。日本社会の縮小版と見られている日本系企業は、単独人間の集まるものではないので、グループ集合の形で形成されたものである。グループ仕事は個人と比べると効率性はそれぐらい高いではないけど、完成度や質量としては個人に優れていると見られている。また、日本社会は集団意識そのものの集大成と認識されたものなので、集団で仕事を完成するのも日本系企業の特徴であるもの。

以上のものは、日本的な経営システムと組織システムそのものである。いわゆる、日本の会社はほぼ以上の特徴を持っていると見られている。更に言うと、ある会社が以上の特徴を持っていると、その会社は日本系経営システムの下に運営された会社であるし、日本系組織そのものと見られるの可能性がある。本研究に挙げたジャニーズ事務所という会社は、そのものである。

4.2、ジャニーズのアイドル育成における日本組織論

通常のアイドル成りというものは、我々の感じの中に、多分「育成」とは繋がれないものだと見られる。それは、昔も視点からしかし、現在の視点からしかし、アイドルというものは職務とは言えないし、業務とも言えないし、仕事とも言えない。アイドルはただの大衆娯楽対象と見られてきた。しかし、ジャニーズ事務所はそこから抜いて、「アイドル」を職務化にした。ジャニーズのアイドルに対して、踊るや歌うなど、演技も含め、バライティも含め、その範囲内のことは、すべで仕事と認知される必要があるので、仕事に対して、真面目な態度と真剣さだけしかしなくて、好奇心も研究心も含め、自分を高めるのため、全身全力で仕事に入り込む必要だと教われた。

事務所から見ると、最初からアイドルに対して社員のように育成した上、今後そのアイドルは自分自身の成長を管理することもでき、仕事の昇進もでき、他人の育成も含め、管理層になることもできる。アイドルはただのアイドルではない、芸能界しかし、社会しかし、国しかし、ファンだけではなく、一般の人に対して何が貢献できることが出来たら、ジャニーズアイドルとしては最大の仕事と教われた。したがって、現在役者としてのアイドルもいるし、ニューズキャスタとしてのアイドルもいるし、コンサートの監督と勤めているアイドルもいる、と見られている。

ここで、ジャニーズ事務所のアイドルに対す育成方法主に三つを分析してみたい。
１、アイドルの養成：短期選抜→長期育成
２、アイドルの特徴：個人主義→グループ統合
３、アイドルの雇用と市場影響：ユリカゴ→墓場（長期雇用形態とファミリー市場）

この三つの方向は、ジャニーズの特徴と見られているので、歴史から見ると、破天荒な変革と呼ばれてきた。特に「アイドルの育成」という概念は、昔は全然なかったので、ジャニーズは一番手としてその理念をその業界にもたらした。またその理念は業界だけではなく、市場にも浸透しすぎて、ジャニーズはずっと一番手として、その業界を支配してきた。それはジャニーズの成功の最大な要因と見られている。

4.2.1、アイドルの養成：短期選抜→長期育成

アイドルのデビューの「きっかけ」は、昔はずっと選抜という一つの方法であった。歌手が足りなかったら、オーディションをやって、歌が上手い人を選んで、歌手をデビューさせた。また清純派女優がなくなったら、何とかのコンテストをやって、何人かの可愛くて演技はまあまあいけそうな女の子を選抜して、デビューさせた。しかし、このパターンは、ジャニーズのほうから、変えてしまって、ジャニーズ Jr. という育成体制を作って、小さい頃から事務所に吸収して、働かせて、そしてデビューさせたら、一生続けなければいけない状況になってしまった。

ジャニーズのその体制は、選抜という伝統的なに対して、凄く進化したやり方と思われる。選抜は、いわゆる一瞬キメのことなので、先天的な要素は極めて重要と見られる。例えば、アイドルなら、顔、身長、体格、そして一部の性格と今まで積んだ経験である。しかし、そういうものは小さいな子に対して、凄く変わるものなので、当然顔や身長や性格は、一定的に DNA によるものしたがって、変えることが難しい。けれども、他のものはほとんど変えるなので、姿勢、喋り方、気質、学歴、そして表の性格、そのものが変わったら、特にいい方法に進んだら、人気を集めるのも、全然問題なさそうなことなので、したがって、事務所は市場ニーズに合わせて育成してきたアイドルは、一時期で選抜されたものと比べ、無論前者の優位性は高いものである。

当然、今の市場需要から見ると、顔や体型だけに重視される「アイドル」は、ほぼ長く上手くいけなさそうな感じになってきた。「アイドルは勉強も必要！」嵐の櫻井翔

を皮切り、後輩の中にもう何人かが大学を卒業して、その中院生に合格した人もいる。「アイドルは作家もなれる！」ＮＥＷＳの加藤シゲアキはもう三冊出して、若い男女と主婦層の中に凄く人気が保っている。「アイドルはスポーツもできる！」KAT-TUNの亀梨和也は野球経験のお蔭で、スポーツニューズのキャスタを務め、野球レベルはプロに負けないぐらい上手いと見られて、男性ファンとおじさんファンは凄く増えてきたと見られてきた。したがって、「アイドル育成」はもう既に「需要による育成」と思われている。

A、従来日本型のアイドル成り形態

従来の日本型アイドル成り形態は、ジャニーズの育成も含め、大体四つのパターンがあった。その中、二つの大きな範囲を分ける。その一は、長年間ずっと流れてきて、残してきた「選抜方式」というものである。もう一つはジャニーズが初めて、今は一部の芸能会社に真似されるの「育成方式」と見られている。

日本の伝統的な「芸能選抜方法」は主に三つの種類がある。その一つは「コンテスト」である。伝統的なコンテストは、大きなプロモーション会社が自社に相応しい芸能人を取るため、大きいなオーディションをやり、優勝者をデビューさせるということである。日本の歴史があるそういうコンテストは、例として、ホリプロ会社の「タレントスカウトキャラバン」とオスカーの「国民美少女コンテスト」であるもの。「タレントスカウトキャラバン」からは、榊原郁恵、山瀬まみ、堀ちえみ、深田恭子、石原さとみ、綾瀬はるなどの女優さん達が脱出された。「国民美少女コンテスト」は米倉涼子・佐藤藍子・上戸彩・武井咲・剛力彩芽・忽那汐里などの女優さん達が、そこから芸能界に入り込んだ。当然コンテストという選抜は顔を中心することには過言ではないけど、最近のコンテストはいろいろな審査点があって、全般的な審査と見られているし、芸能界に入るのは、顔だけの勝負もうできなくなってきて、難しくなってきた。しかし、視聴者に対して、普通に見ているの人に対して、見どころは増えているし、芸能界の質も高めていると認知されて、楽しんでいけると思われている。

その「芸能選抜」の二つ目は「徒弟制」である。その選抜方法は、一定の領域の中に昔から凄く重視されている制度と見られている。例えば、歌舞伎業界、演歌業界、大物作曲家など。調べたら、徒弟制は主に音楽関係の領域や業界で使われていると見られている。なぜかというと、音楽は人間性を凄く表せるものである。指揮者の北村憲昭先生が著者された、「君達の音楽は間違っていないか。音楽のマニュアル」という本の中に、ある言葉を書いた。

「音楽と徒弟制度は、起こるべくして起こった制度であった。」
彼の解説には、やはり音楽は心の振り合いべくものなので、良い師に学んだり、親密関係を築いたら、良い音楽を創りだせるはずだ。
当然、その業界で現在弟子制以外の選抜や育成方法も存在しているけれども、長年間ずっと流れてきたその「徒弟制度」は、その業界の中こそブレないものである。良い師とともに生活、研修、学習、練習等、この一緒に居られている人生の中、自分の能力はかなり高められる一方、自分の人間性も緩やかになってきた。日本史の学者の中、弟子制を研究している研究者が凄く多くて、その理由は、芸能伝承というものは弟子制に依存しすぎものだと見られていいる。

「芸能選抜」の三つ目は、「スカウト」であるもの。一般の意味で、「スカウト」というものは、あまりよくないことと見られているのに、しかし、芸能界でそのパターンでデビューされた芸能人は少なくもない。例えば、竹内結子、柴咲コウ、吉高由里子、山田孝之、佐藤健などは、全部スカウトされた有名人なので、というと、芸能界での「スカウト選抜方法」は適切であるものだ。むしろ非常に効率的なものである。

「選抜方法」の一方は、「育成方法」である。しかし、従来の日本芸能界は、「育成」という概念はほとんど存在していなかった。業界暗黙のルールとして、選抜コンテストやスカウトは基本な方式と見られているので、Johnny 喜多川さんが現れたに至った。男性タレントのみのジャニーズ事務所は、一般企業の育成活動から学んだり、独特な育成方法や選抜方法を創りだし、そのやり方は芸能界のイノベーションであった。それは、ジャニーズ Jr. という育成制度と呼ばれている。ジャニーズは最初オーディションなどの選抜により、小さい男の子を取り入れ、一定の基礎知識や実戦訓練を与え、その中に優れている子達を選び、デビューをさせる。そして、正式的なジャニーズアイドルとして活動していく。基本の仕事は CD やアルバムを出し、コンサートを行い、番組を出演と作り、また個人としての CM やドラマや映画の出演を含め、芸能活動を行っていく。その中、ある特徴を持っている人は、ニューズキャスタを務め、監督をやり、本を出すのアイドルもいる。そうからみると、ジャニーズはいろいろな業界に人材を輸出し、その日本芸能界の地位は、もうブレないと見られ、男性アイドル業界を支配しているし、寡占地位となってきた。したがって、他の事務所や芸能会社も、全ての選抜方式から抜いて、ジャニーズのその「育成方針」に移した。例としては、EXILE や AKB グループも、当然ある程度の「ジャニーズマネ」をしてきて、今の芸能界で一席を保つことができる。ジャニーズのその欧米からの「アイドル育成風潮」は、日本芸能界を変えてきた。

B、従来日本のアイドル育成形態（速成式）

従来の日本アイドル育成形態は、ほぼ育成とは言えないものである。選抜に重心されてきた業界したがって、選抜の意識は凄く強くて、育成の余裕もなくなてしまった。先の説明の中に、芸能界でスカウトという形の選抜は今だにも対応できるのため、スカウトされたの男女は、ある事務所に入り、契約した。または、一定程度のオーディションを行い、アイドルを選抜する方法もある。その方法を用いて、一定能力や人柄を持っている人を採用でき、特に顔のほうが、まぁまぁイケメンや可愛い子を取り入れる。その上、歌が上手い人、ダンスもうまい人、また楽器ができる人、何らかの芸を持っている人としたら、その事務所にとって、優位性をもたらした。

その後、その選抜された、スカウトされた芸能界の男女新人たちは、事務所による一定の訓練を受ける。その訓練は、いわゆる軽いレッスンと見られている。そのレッスンは当然プロ向けでなく、むしろ初心者向けの基本講座だけである。歌ができない人に教える発声方法とか、ダンスできない人に教える基本歩など、できればそのレッスンをうけた上、音程ズレや動けないということを防ぐことが少しだけ緩和できる。番組やライブが進むことが出来たら、何よりも。

最後、事務所はこの出来上がされた芸能新人を芸能界にデビューさせ、CM やドラマなどを出演でき、CD まで出せ、そういう過程は、普通の芸能界の「アイドル育成」、いわゆる「速成式」育成パターンである。当然、この「速成式」パターンのメリットは変動が速いし、運営コストも少ない。しかし、このパターンの一番のデメリットは、本物の芸能界大物を作ることができない。

確かに、たとえこの新人の素質が凄く良くて、自分は努力して、演技も歌もダンスも司会能力も全部学習してあげ、その場合は当然のことだけど、実際多くは言えない。「速成式」からの芸能新人は多いけれども、大物になる人は、その方法によることはできない。何故ならば、その訓練やレッスン、またその最初の選抜には、段階もないし、標準もない。どのような人を出来がれるのか、どのような人を求めているのか、事務所にも、本人にもわからない。その芸能デビューは、むしろデビューにおけるデビューなので、無意味とは言えないけど、意味があるかどうかは、疑問が抱えている。したがって結果として、大勢な人を取り入り、大勢の人が辞めてしまい、時間も無駄してしまい、コストも無駄してしまった。このような結果は、誰に対しても損失に過言ではない。

C、従来英米のアイドル育成形態（段階式）

したがって、「欧米をマネして、本物の芸能人を創りだせ！」っていう声も上がってきた。なぜかというと、欧米の芸能人作りはかなり歴史があって、本物的、系統的な教育を含め、プロの芸能人を創りだせる。歴史的から見ると、英米早期の芸能パフォーマンスは大衆向きではなく、宮廷向きのものであった。いわゆる、本物的プロ的なパフォーマンスじゃないと、王様や王妃様や貴族達に対して、非常に失礼なものであった。したがって、担当の大臣たちは、厳選的な選抜により抜き出した合格者達に、また系統的厳しい訓練を与え、長い時間を経って、王様の前に恥をかかさないようなパフォーマンスができれば、出演チャンスをもらえるの可能性がある。当然命にかかわる仕事したがって、気を抜いたら大変なことになるの可能性がある。

したがってこそ、担当者も、演技者も、十分万全な準備を整える前、絶対舞台に出せない。結局、最後王様の前でパフォーマンスした人は、プロ中のプロと見られている。その宮廷中の訓練は、最初の芸能学校と呼ばれている。一流の大物を呼んできて、本気なレッスンを行い、学生は多分いろいろなクラスを分け、違うレベルの教育を受ける。そして、その中に選ばれた人は、到底素晴らしいパフォーマンサーと見られている。

したがって、その歴史のお蔭で、今の英米芸能人育成は、まだその形に従ってきた。英米は前も説明したので、日本と似てるな「アイドル」という概念はあまりない。「アイドル」という言葉は、英米の概念の中、パフォーマンサーと似てるの可能性がある。音楽や演技で優れている人に対して、ある崇拝の気持ちを持たれる、その優れている人は、「アイドル」と呼ばれている。したがって、その人たちは、必ず一定の技術や芸能を持っているはずだ。

現在の英米芸能業界で、プロのパフォーマンサーになると、二つの方法がある。一つは段階的の専門教育、もう一つは段階的な大衆選抜。専門教育によるパフォーマンサーは、本当にプロ中のプロと呼ばれ、最初は大学や専門学校を経って、何年間の専門教育を受け、そして基礎知識と実戦訓練も身に付け、卒業に辿り着く。それは第一段階の学校教育である。第二段階は舞台の訓練である。ブロードウェイの役者も含め、特にイギリスの役者たちは、舞台での時間は一番長いと見られている。この役者たちの信念は、舞台で演技腕を上げ、観客に最高の舞台を差し上げ、その理由で、役者になれる。その中に、舞台だけで中心している役者がいるし、その同時に映画やCMもやっている役者もいる。演技力を高めるのため、最初段階でドラマもやったことがある役者も、少なくない。しかし、舞台にの執念を抱えている人も当然大勢である。も

ちろん、舞台での稽古練習は中間の段階と見られている。TV 出演や映画などは、その後の段階と呼ばれている。その全ての段階を全部通過した上、専業役者や音楽者になれる。それは専門教育の段階式。

もう一つはアメリカで凄く人気あるの選抜ショーである。21 世紀頭からのこのたくさんのパフォーマンスショーは、厳しい段階的な選抜によって、凄く優秀な芸能人材を選ばれる。当然、これは専門的な音楽者や役者を選択するわけではない、ただ大衆娯楽のため、テレビ局側も視聴率のため、作られた番組だけである。しかし、その一部の番組のレベルは非常に高いの故、プロの参加者も顔が出てきた。そのお蔭で、番組のレベルを高め、視聴者も盛り上がれ、最後頂点に立つ人は、プロに負けないぐらい実力がある。結局、その大衆向きの娯楽番組も、専門的な芸能人の温床である。

それと比べ、日本の選抜式は、やはりレベルはそこまでに至れないと思われる。しかし、日本と英米の顧客は少々違いレベルがあって、そこまでにやらなくてもよいと見られている。日本は、一般の顧客のため、大衆の一緒に盛り上がるのため、娯楽的な形でアイドルや芸能人を選抜するので、そのため、長時間の育成はあまりに向いていない。一般顧客の趣味に合わせるため、ダイバーシティ的な芸能環境を作れないと、顧客を取れない。したがって、変動の速い短期選抜式は日本芸能に一番ふさわしいと思われる。しかし、単純な選抜式によると、良いアイドルと芸能人材を育成ことがあり得ないと見られているので、ジャニーズ事務所はその上で、革命を起こして、新しい概念を日本芸能界に持ち込んで、短期選抜と長期育成両方もやっている。また、その両方を比べると、ジャニーズ事務所は「長期育成」をもっと大事にするという形になってきた。

D、日本での長期アイドル育成形態

実際、日本今の芸能育成形態から見ると、「長期育成」は二つパターンがある。変動速いの娯楽芸能業界における「ジャニーズ式の育成式」と変動鈍いの演劇芸能業界における「宝塚式の育成式」である。３つの観点から比べましょう。

１、育成場所：ジャニーズは事務所で訓練を行う、宝塚は学校を持っている。

２、授業形態：ジャニーズは短時間講座みたいな訓練であるし、宝塚は全日制教育を行っている。

３、訓練内容：ジャニーズはダンス、声楽、演技とかのアイドル仕事に関する基本技を教われている、宝塚は全ての芸能や演劇や声楽と関する基礎科目と関連科目を学習すべきだ。

E、宝塚的の「トップ役者作り」

以上のことを見ると、宝塚の育成形態（トップ役者のみ）は、確かに本物の英米育成形態となっている。それは、宝塚は、本物的な役者さんを創り出したいっていう理念があるこそ、そういう形になっていると思われる。ここで、簡単で、宝塚を紹介させて頂こう。そして、ここで紹介させている「宝塚式」の育成方法は、まず「宝塚音楽学校」におけるものからである。それは、「宝塚式」の第一段階となっている。

「宝塚音楽学校」の教育方針は、以下の文で表している。まとめというと、素晴らしい高素養な舞台役者を創りたいと見られている。

「宝塚歌劇団生徒の養成機関として、音楽、舞踊・演劇等の伎芸を練磨し、舞台人としての素養を修得させ、清純高雅な人格と教養を育て、立派な舞台人の育成に努めます。　そのため、精神的にも肉体的にも厳しいレッスンに耐えられるよう訓練し、同時に躾教育も重視します。」

また、その学校生活も訓練中心となっている。学校で、プロの講師を読んで、その講師の指導により、声楽、ダンス、演劇、日本舞踊などの授業を行い、音楽会や文化祭の舞台で、授業の成果を披露し、そして外部イベントや記念行事への出演、劇場での観劇など、様々な角度から舞台人としての基礎作りを行なっている。具体的なスケジュールから見ると、その二年間は本当に密集的なスケジュールに従って、本物の勉強をやってきた。以下は、宝塚音楽学校で一週間のカリキュラムであるもの。

これを見ると、宝塚の凄さはすぐ一目瞭然となる。このような密集的なカリキュラムは、普通の芸能専門学校はまずあり得ないし、一般の学校しかし、受験学年でしかできないから、本当に恐ろしいぐらいの厳しいと思われる。しかし、これこそ、宝塚か

ら卒業した学生は、この業界で一席を獲得ことができる。カリキュラムによると、一週間で六日で授業している。毎日基本朝九時から夜七時まで、5や6科目を学習しなければならない。演劇、バレエ、ポピュラー、日本舞踊、ピアノ等等、専門的系統的な授業を受け、循環的に行っている。このような訓練を受けた上、全ての技を全部身に付けるとは言えないけど、必ずその一部は上手くなれると見られている。その中で、一部の優れている人たちは、2年間の授業を経って、宝塚歌劇団に入団することができる。その世界に誇られる超一流の日本エンタテインメントと言える「宝塚歌劇団」は、日本近代の大衆芸能文化の中、トップの一つと見られている。

日本の英米式芸能育成と最も近いその段階的な「宝塚式」の中、第二段階と呼ばれているのは、その「宝塚歌劇団」という段階である。現在、ウィキペディアによる宝塚の紹介は、以下となっている。

「宝塚歌劇団は、兵庫県宝塚市に本拠地を置く歌劇団。阪急電鉄の一部門であり、阪急阪神東宝グループのエンターテイメント・コミュニケーション事業として運営は阪急電鉄創遊事業本部歌劇事業部が行っている。劇団員は同社の社員扱いとなっている。理事長は小林公一（創始者小林一三の曾孫、阪急阪神ホールディングス取締役)。」

「宝塚音楽学校」から卒業した上、「宝塚歌劇団」に入団することとなっている。

「宝塚音楽学校の2年課程を終えて、卒業認定されたのちに入団式を経て、正式に宝塚歌劇団の研究科1年生（研1生）となる。」当然、その中に本人のある理由（技量や容姿等）での理由で歌劇団から入団を認めてもらえないこともある。資料によると、主に、音楽学校の卒業式が午前中、歌劇団の入団式が午後から執り行われることが多い。そして、ここで宝塚の特別なルールがあって、歌劇団に入団の上、雇用形態となっている。「入団が認められた研1生は、入団手続きの際に阪急電鉄と雇用契約を締結する。」ウィキペディアでそのように描いている。

雇用形態となっており、契約と結び、そのような状態になったら、入団したの団員もすべて「宝塚歌劇団」の雇用社員みたいな存在と認められた。その時点で、「社員」と「会社」の関係と似てるような雇用関係を湧いて、その団員たちは、劇団に対して、義務があるとなっている。その義務は、毎回の公演でのパフォーマンスであるものと見られ、収入や名誉と関わり、そのパフォーマンスに対して、業務や仕事のように扱っていないと、雇用ルールを破るのように、不責任な様子と見られているの可能性がある。したがってこそ、精一杯な状態で毎回の公演に出して、どんどん自分の姿勢か

ら演技まで全て磨いて、トップになれなくても、せめて顧客にも自分自身にも、納得させることができる。したがってこそ、小林一三の遺訓であり、「宝塚」のモットーとして、「清く、正しく、美しく」である言葉は、「宝塚」のすべての生徒にたいしても団員にたいしても、終身で追及していく境界であるもの。

その「歌劇団」という第二段階の中、最も重要なものは「大劇場公演」であるもの。入団した上、一定な稽古を経て、「春の大劇場公演」を迎えに来る。その大公演は、研１生全員が出演すると決まっている。これを「初舞台公演」と呼び、研１生のことは「初舞台生」と呼ばれる。そして、その初舞台公演を経って、研１生全員を組に所属することになる。これは「組配属」と呼ばれている。現在の宝塚には、現在、花・月・雪・星・宙の５組と、いずれの組にも所属しない専科に分かれている。また、年度によっては、初舞台公演の後に研１生が班に分けられて、各組の本公演に分かれて出演することもある。これを「組まわり」と呼び、組まわりを経てから組配属が行われる場合もある。もう一つのルールとしては、生徒によって、配属された組で一定の活動後に他の組へ異動する場合がある。それを「組替え」と呼ばれる。「組まわり」と「組替え」は、普通の会社によると、ジョブローテーションのようなものであって、団員の能力や希望あどの条件に従って、最適な組に配属させるというルールとして、「宝塚歌劇団」のもう一つ偉大な育成方針と見られている。

「宝塚式」の第三段階は、各組の公演となっている。その段階で、「組替え」と「組まわり」を含め、最も立派な演劇者と役者を創りだせる。ここで、ある宝塚の大きな特徴の一つを紹介させて頂こう。これは、「スターシステム」という採用システムであるもの。ウィキによると、「作品において重要な役・ポジションを担当するのは、基本的に各組所属の全生徒の中から選ばれた、一部のスターに限られている。このスターが観客動員・人気において、重要な役割を占めている。」いわゆる、そのシステムは、宝塚の人気を保つため、ある重要的中心的な人を創られ、他の役者はこの人を支え、ファンはその中心的な人に寄せられ、この人も所属されているグループを引っ張り、もっと高い段階に登りたい。歌劇団内で各組のスターの頂点に立つ男役が「主演男役」あるいは「トップスター」と呼ばれ、各公演で主演を務める。そのため、脚本はトップスターに当てて書かれている。また、トップスターの相手役を務める娘役のことは「主演娘役」あるいは「トップ娘役」と呼ばれる。各公演でヒロイン的な役を演じている。（注：当然、宝塚と言えば「男役」であるもの、一般の意識として、その「スターシステム」は「男役」のために作られたものだと言っても過言ではない。本研究は全体的な「宝塚式システム」をベースとして作られているので、その区別を紹介しないさせて頂こう。）

当然、その「スターシステム」のもう一つの意味は、団員の向上心や競争意識を高めることができる。「宝塚式」の最終段階は「退団」という形になっておる。いわゆる、「卒業」という意味と見られている。その段階に辿り着いた団員は、トップスターは当然、そしてあと一部は自分自身の中にもう昇進できない団員も含めている。ここで強調したいのは、宝塚の「スターシステム」は、その最終段階としている「退団」という段階がないと、成立できないシステムである。何故かというと、前のトップがずっといる限り、他の団員がトップになれるチャンスがなくなる。そういう状態になれば、団員に対して、遣り甲斐もだんだんなくなるかもし、競争意識もなくなり、向上心や研究精神もなくなり、劇団に対しても団員に対しても、決して良いこととは言えない。

したがって、現在の「宝塚段階式」とその「スターシステム」は、最高の組み合わせとなっている。学校の基礎教育と訓練、入団後の大劇場公演、その次の「組配属」や「組まわり」や「組替え」、また毎年毎年違う舞台に立って、違う相手と出会い、交流、コラボして、各組のトップスターを目指して、日々昇進に注力し、自分自身に納得できる役者となったうえ、退団する。その形で作られた「宝塚トップ役者」と呼ばれている人たちは、今後日本の芸能界という新しい世界に殿堂入りとなっている。当然、宝塚で卒業した人は、全員日本の芸能社会に入ることはできないと決まっている。しかし、その中のトップ役者たちは、本当に日本の演劇業界や芸能業界に対して、素晴らしい財宝をもたらした。それは、その人たちの人柄や演技であるもの。

F、ジャニーズの「アイドル作り」

以上の分析によると、日本芸能界で単なるの「アイドル育成」と宝塚式の「本物役者作り」は、はっきり二つのパターンを分けている。しかし、変動が速いの娯楽芸能業界と変動鈍いの演劇芸能業界は、そのようにはっきり分けているにはならない。したがって、その一つの育成方法に中心すると、仕事の範囲が限られているとなり、その芸能人自身に対しても、事務所に対しても、発展とは難しいと見られている。ここで、ジャニーズ事務所が現れた。事務所のトップである、世間にジャニーさんと呼ばれているその Johnny 喜多川である人は、日本芸能界の嵐を巻き起こした。

ジャニーズ式の育成方法は、今から見ると、上で述べた「速成式アイドル育成」と「段階式役者育成」の合体となっている。ジャニーズのアイドル育成は、主に四つの大きな段階がある。第一段階は「選抜」である。適齢の男の子は事務所に履歴書を送り、

オーディションを経って、研究生のような「ジャニーズ Jr.」に選ばれる。第二段階は、ジャニーズ Jr. に訓練や教育をさせ、芸能技を身に付けさせる「ジュニア段階」である。第三段階はジュニアデビューした後、正式的なジャニーズアイドルとして活動する「ジャニーズタレント段階」である。第四段階はジャニーズの裏側に移って、管理仕事を務める「管理層段階」である。

全てジャニーズアイドルに対して一生忘れられないことは、最初の「選抜」というものである。これは、ジャニーズの一つの大きな特徴である。基本、ジャニーズの選抜は二段階がある。第一は、事務所に履歴書を送ること。ジャニーズのアイドルトークによると、履歴書を送ることは、二つのパターンがあって、自分から送ると他人から送る。その他人は、基本女性の親戚や友人のほうが多い。以前の履歴書選抜、全てジャニーさん自らで行うことであったそうだ。したがって、ジャニーズに入った子供のことに対して、ジャニーさんは全て知っている。最近のことは報道されていないので、多分変わってきたの可能性がある。しかし、最終結果はジャニーさんに報告するのは、必ず必要と思われている。「ジャニーズ選抜」その二は、オーディションである。履歴書の選抜から抜いた男の子たちは、ある場所に行って、ダンスや歌などのことをして、もう一回の選抜をさせる。しかし、ジャニーズアイドルトークによると、オーディションを通過しても、ジャニーズに合格とは言えない。そもそもジャニーズに対して、合格という概念がいない。履歴書を送っただけでレッスンに呼ばれていた人もいるし、オーディションを通過してもなかなか連絡がもらえなかった人もいる。いわゆる、事務所次第である。

第二段階は「ジュニア段階」と呼ばれる訓練段階である。第一段階から見ると、ジャニーズの選抜は凄く適当と見られているのに、実際選ばれたジャニーズ Jr. に対しての「ジャニーズアイドル育成」は、業界的に凄く素晴らしい方式である。その方式は、ジャニーズの名物と呼ばれている「ジャニーズ Jr. 制度」であるものだ。芸能活動に興味がある未熟している少年達は、レッスンを受け、知識を学習し、先輩のバックダンサーであり、番組の付き人であり、その芸能界の中に自分の腕を磨いていく。ジャニーさんはジャニーズ Jr. 制度を通して、世間にある発信をしたい。それは：芸能界に対して何も知らない子供たちも、視聴率を得り、ファンをもらえ、お金を稼ぐ。一見から、それはあり得ないことと思われる。しかし、ジャニーさんの考えは、本当に優れている。正しいこととは言えないけど、成功とは言える。それは、母性本能や共通感覚と呼ばれているものである。理由とかは後篇で詳しく分析したいと考えられる。ジャニーズ Jr. になっている段階で、事務所側はその Jr. 達のためたくさんステージを創り出した。番組でありコンサートしかしあり。Jr. 達はこのステージを通して、

歌や舞踊、また会話と演じの技術も学習し、一人前の「アイドル」を目指していく。その訓練は全て系統的段階的となっている。例え、最初はレッスンをする。その上はバックダンサーや付き人となる。後は自分の番組で司会となり、自分のコンサートも創ることができ、ドラマとかの出演も得られる。そして最後、一定の時間を経って、管理層目線から見ると、成熟な時期が来ると思われたら、その子たちは全ての Jr.の中から脱出して、CD を出すこととしてデビューさせる。その「ジュニアデビュー」となる段階式は、ジャニーズ事務局の慣例ものと見られ、今までずっと従われてきた。

第三段階は、正式的なジャニーズアイドルとして活動している「ジャニーズタレント段階」である。ジャニーさんがある四人の野球少年を集めたあの日から、今までジャニーズ事務所は業界 NO1.として 50 年以上に歩いてきた。現在統計すると、ジャニーズ総グループは 14 個になってきた。Jr.グループは 2 つ（関東と関西）、個人タレントは 8 人である。その中に、近藤真彦さんは今年デビュー35 周年となってきた。少年隊は芸歴 30 年も越えてしまった。SMAP、TOKIO また来年の V6 は、20 周年となってきた。2011 年 9 月、ジャニー喜多川社長がギネス記録にW認定とされていた。その内容は「最も多くのコンサートをプロデュースした人物であり、2000 年から 10 年までに、8419 回のコンサートをプロデュースした」。同時に、喜多川社長を「最も多くのナンバーワン・シングルをプロデュースした人物」とも認定。1974～2010 年に、同事務所所属の 40 組以上のグループの 232 曲が「ナンバーワン・シングル」になったという。その中に、kinki.kids は自身の持つオリコン歴代 1 位記録でギネス公認記録しかしある「デビューからのシングル首位連続作品数」（同 2 位 KAT-TUN＝22 作）を 34 作、同 1 位記録の「デビューからのシングル首位連続獲得年数」（同 2 位 KAT-TUN＝9 年）を 18 年とし、そろって更新した。その認定や記録などのことは、ジャニーズの凄さの本の一部と掲載されているので、簡単なまとめとしては、ジャニーズ事務所は日本芸能界に対して、失くしてはいけない存在となっているし、日本文化として優れている存在となっているし、世界にアピール日本の象徴の一つと見られている。

第 4 段階は「管理層段階」である。しかし、現時点この第三段階に移った大物ジャニーズタレントは一体あるかどうか、また明らかにしていないので、噂によると、近藤真彦さんと東山紀之さん、その二人だけ管理層に務めているはずだ。しかし、実際のことはどうなっているのか、世間には報告していない。

G、外資的宝塚ｖｓ日本的ジャニーズ

以上の分析した上、ジャニーズと宝塚の凄さは明らかに描いている。その比べは、ちょうど現在日本経済を象徴していると見られている。宝塚方式は、現在外資的な企業

と現わしているものである。芸能のプロを創り出すという理念を追求し、優れている個人性やマルチスキルを尊重しているはずだ。一方、日本系のジャニーズにとって、グループ性や役割分担である形態を追求すべきと決まっている。その上、宝塚は卒業概念を導入し、外に輸出することを最終目的として運営している。逆に、ジャニーズは卒業概念がないし、むしろ終身雇用の概念を持たされて、内部昇進に頼り、外と競争するパターンとなってきた。両方の経営も優れているの上、やはり日本系のジャニーズは日本社会に浸透しやすいし、経済的にはかなり宝塚に勝っていると思われている。

4.2.2、アイドル特徴：個人主義→グループ統合

ジャニーズのアイドル育成の中、もう一つ優れている方針はグループ性と見られているものである。当然、グループとしてデビューさせるアイドルはジャニーズだけではなくて、ジャニーズと同時にデビューさせるグループは少なくなくて、ジャニーズ以降でデビューさせるグループもたくさん存在している。しかし、徹底的にグループとして活動してきたのは、ジャニーズ以外はほとんどいなかった。例え個人タレントとして今年 35 年の芸歴を過ごした近藤真彦さんも、たのきんの一員としての印象は今まで日本芸能界に残ってきた。少年隊は今まで少年隊というグループとして活動している。解散したのグループは、もう活動としてできないけど、その代表的な歌やパフォーマンスも、ずっと残ってきた。例え現在個人タレントとして活動しているジャニーズの大先輩内海光司と佐藤敦啟、その二人の名前を聞いたことがある人は、現在多分凄く少ないと思われているけど、そのお二人を属していた光 GENJI というグループの名前を知っている人は決して少なくない。それはグループの力である。単なるの理由は、インパクトがある。

ジャニーズは従来芸能界に貢献をしたいという概念がなかったの可能性がある。優れている芸能プロを創り出し、素晴らしい芸の技を身に付けるとかの目的は、多分当時のジャニー喜多川さんに対して、考えたことがなかったことであった。ジャニーさんの本心は、ただ「夢を作る」だけだ。彼自身の夢しかし、彼の息子たちのようなアイドルの夢しかし、そしてファンの夢しかし、業界の夢しかし、ジャニーさんはずっと夢を作ってきただけだ。したがって、彼は彼のタレントを社員として扱っているし、事務所以外の範囲を市場と認識し、事務所以外の人は顧客と対応してあげる。したがって、ジャニーズ方針の一つには、「ファンの需要は一番である、できれば全て応えてあげる。」ていうようなものである。それと比べて、宝塚の方は、正真正銘のプロ

役者を創り出したいである。非常に素晴らしい舞台パフォーマンスを出すため、最初から専門的系統的な授業をさせ、きちんとスケジュールを整え、学校まで作って、生徒を育成出すと考えられる。そして、たくさん訓練を与え、スターシステムまで作って、競争心と研究心を湧かせ、歌劇団で毎年毎年の経験を積んで、一人前の役者になるため、毎日努力をする。

そうから見ると、ジャニーズ市場戦略は、宝塚とは確実に違う。あるのは演劇の専門家、あるのは大衆の娯楽組である。しかし、一人のスターと比べ、ジャニーズのアイドルグループは社会的に対して、受け入れやすいと思われる。何故かというと、本気にプロのパフォーマンスを見に行く人は、正直に言うと少ない。逆に毎日テレビを見る人たちは、面白いし格好いい人が好きになれやすいし、にぎにぎしい団体やワイワイしている雰囲気などのことを見ると楽しくなるの可能性がある。したがって、ある格好良いプロ役者の舞台と比べると、ある団体の定期バライティ番組をみたいの可能性がある。いわゆる、グループとしての大衆娯楽パフォーマンスは、プロの専門的パフォーマンスより、一般の人に受け入れやすいと見られている。

以下の説明の補完として、ここで組織的に、グループ制度の優位性を分析してみよう。

１、評価基準の違い

普通の組織で、一般社員の育成として、業績の評価基準は凄く重要な参考と見られている。その中に、固定性を表せる要素と柔軟性を表せる要素、この両方で評価する。固定性を表せる要素は、行動と特徴を分けて、例え個人の場合は、行動は単一で、カリスマ性を求められている。一方グループの場合は、行動の重心点は統一されたかどうか、グループ内分業化してるかどうか、そして求められている特徴は、一見矛盾だけど重要な両面性であるもの、それはそのグループの一体感と多様感である。その状態は以下の比較表で表している。

業績評価要素比較表					
要素 形態	行動	特徴	変動性	多様化性	対応性
個人	単一化	カリスマ性	低い	少ない	緩い
グループ	統一化 分業化	一体性 多様性	高い	多い	速い

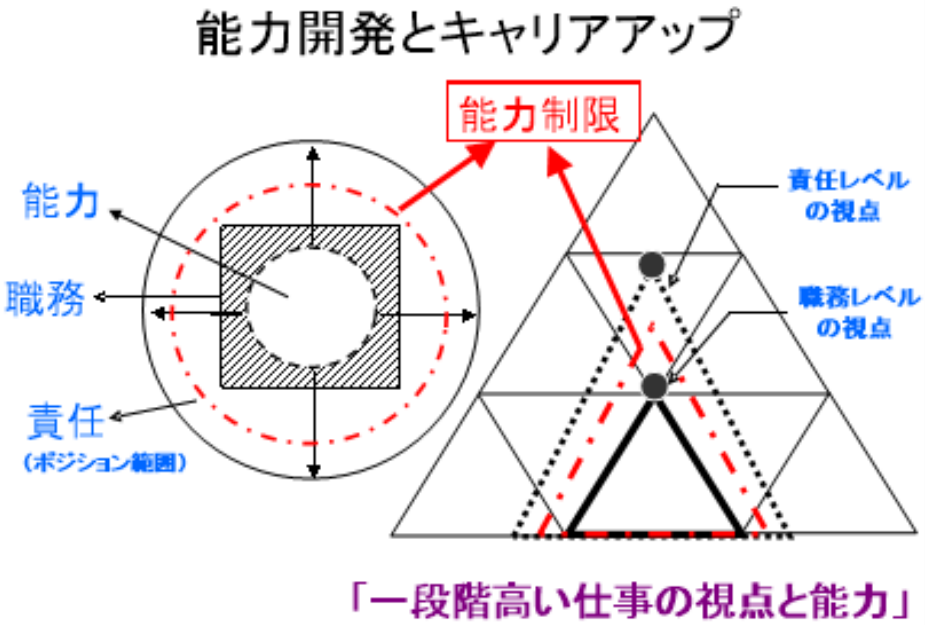
当然、一般の会社社員に対して、業績を評価できる固定性を表せる行動と特徴要素は凄く重要であるもの。それは、個人にとってもグループにとっても、仕事に対して、高率で完成するのは一番重要なものしたがって、限られている市場の中に、長期発展のため柔軟性が必要だけど、きちんと目の前の仕事を終わるのは基礎である。一方、残りの「変動性、多様性、対応性」という三つの要素は、仕事や業務に対す柔軟要素と扱っているものである。比べると、個人のこの三つの要素に対して、柔軟性が凄く低いと思われ、グループの場合非常に高いと見られている。それは、一定されている仕事に対して、不重要とは言えないけど、ただの評価基準の一環として扱っているだけな要素と見らえている。

しかし、それは芸能界の中で、別の話となるはずだ。強いて言うと、芸能界の評価基準は、後ろの柔軟性を表せる三つの要素は「最大」と扱られる。具体的に言うと、芸能界によると、例え個人に任せる仕事に対して、能力面の他に、いろいろな制限が存在しているはずだ。時間面や、体力面も、そして受ける面もあるはずだ。いわゆる、個人に任せる仕事は限られている。しかし、グループによると、同時に違うことをパフォーマンスするのは、可能である。当然、それは個人もできることけれども、グループと比べると、やはりその数や質も同じレベルではない。簡単に言うと、個人と比べると、グループとして芸能界でできることは当然多いであるし、より多くの人に受け入れることになれる。

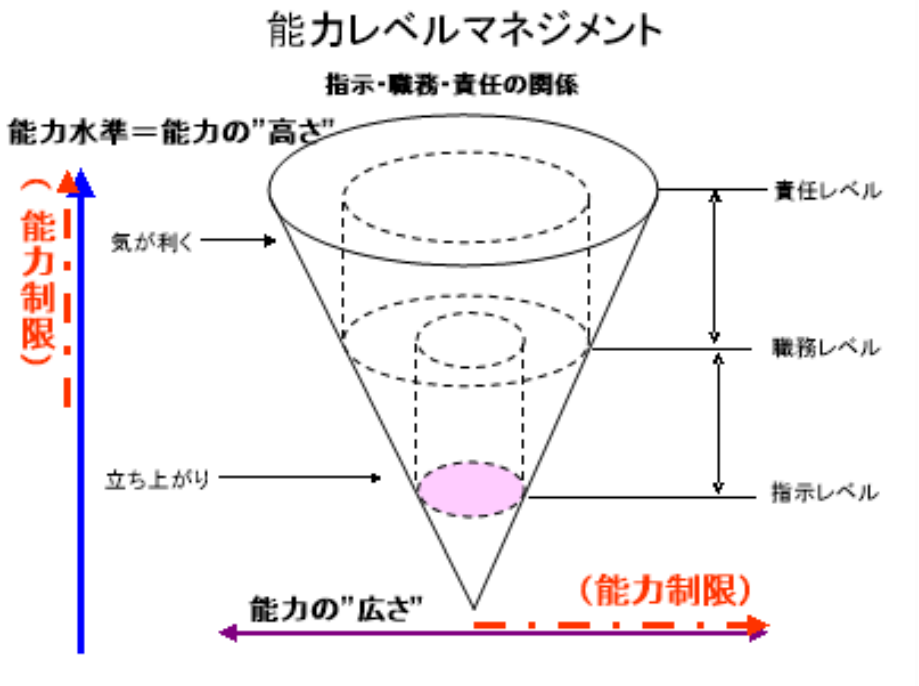
２．能力制限のため、ポジショニングの差がある

ここで、まず能力開発とキャリアアップの概念を紹介する。能力開発とキャリアアップは、全ての組織に対して、人材育成における最大の一環と見られている。

その一は仕事行動の構造である。以前の仕事行動は職務と責任の二重構造で行っていたのに、最近の仕事行動には、能力（スキル）を加え、三つの関係で考察する。実際の関係から見ると、職務範囲は一番基礎的なものである。職務範囲内の能力がないと、基本の仕事さえ完成できず、キャリアアップももちろん、仕事を守るさえ精一杯となっている。その上は、責任範囲であるもの。実際仕事という範囲は、職務範囲だけではなく、特に日本の組織に対して、自己中心で自分なりの仕事だけを完成しても、キャリアアップにならない。それは、日本組織というものは、集団であるもの。前も説明してたが、日本人の集団意識は非常に高くて、それぞれ自分の仕事に没頭より、お互いの仕事を助け合いのほうが常識である。したがって、職務範囲以外責任範囲もある。そして、その責任範囲は、ポジションとかかわり、ポジション範囲とも言える。それぞれの人々は、会社という組織にいり、仕事にかかわる職務範囲内で行動し、そして責任範囲内で行動して、能力を発揮するのは、普通の勤務と見られている。また、一段階の高い視点での能力開発のは、普通のキャリアアップと見られている。しかし、その中に、能力というものは、それぞれの人々によって、格差もあるし制限もある。職務範囲内の能力がないと仕事ができない、責任範囲に足していける能力を持っていない限りキャリアアップが難しい。また、最も難しいの点は、その能力は人によると、身に付けることができない場合もある。これは、能力開発とキャリアアップに最大の困難点である。以下の図と表している。



KBS の大藪毅先生は、「長期雇用性組織の研究――日本的人材マネジメントの構造」の中、能力レベルマネジメントと指示・職務・責任の関係性を説明されている。簡単に解釈すると、人の能力水準は「広さ」と「高さ」がある「逆三角錐の形」にして、その中に三つの能力レベルに分けることができる、それは下の基礎からは：指示レベル、職務レベル、責任レベルとなっている。指示レベルと職務レベルの中に、能力の立ち上がる段階であるし、職務レベルと責任レベルのなかは、能力の気が利く段階である。それは、会社での社員育成の一環として、能力レベルマネジメント、いわゆる能力開発と見られている。以下の図で表している。



その図から見ると、能力の昇進は正直に言うと、責任範囲内で行っていくと十分活躍できるなのに、しかし、その昇進ができるかどうかは、少し疑問が抱えている。それは、個人の能力は、制限があるので、縦しかし横しかし、高さ内も広さ内も、当然全て足すのはいけないから、最大限の能力開発ができるけど、非常に難しいと見られている。

それは、「ジョブポジショニングマネジメント」に対して、非常に重要な条件と見られている。個人の場合は、あるポジションに配属されたら、ポジションが変わらない限り、その相関能力は一定されたの可能性がある。例えば、会計職務を務めている専用社員は、会計以外の仕事ができるけれども、活用するチャンスが少ない。また極端に言うと平社員は管理能力があれば、リーダシップが高ければ、管理層になる可能性が低い。そして、個人の能力開発は制限があるのため、仕事や職務の範囲も制限されているし、キャリア発展も制限されている。

しかし、グループとして仕事をする場合は、グループメンバそれぞれの能力が違うか

ら、能力による役割分担をさせ、そのため異なる仕事ができるになってきて、活動範囲が拡大できる。これは、普通の組織はほぼそういう状態になっていて、会計、マーケ、人事、生産、事務等等の部門で、各社員は自分の担当されている仕事を専念し、お互いに最大限の能力を発揮出し、そして調整して、会社の業績を日々上げるように努力している。

以上の「ジョブポジショニングマネジメント」は一般会社にとって、どこしかし見られるものである。しかし、個人性やマルチスキルを重視されている芸能界に対して、分業と役割分担性を中心するいわゆるグループ制というものは、非常に珍しいものである。ここは、ジャニーズの凄さと見られている。したがって、前文で述べたある事実はあるグループを例として詳しく説明する。

現在ジャニーズの中に、一番ファン会員数を持っている、一番売れるグループと見られるのは、嵐である。オリコン年間ランキングが２０１４年１２月１９日に発表され、嵐が、400.6 万枚で 138.2 億円の売上数と金額は、音楽部門「１０冠達成」となっていた。それは、嵐の歴史から見ると、本当にすごいと考えれる。昔の嵐は今このような成績を想像すらできない状態があった。その 15 年間での飛躍は、ジャニーズのグループ制を徹底的で貫くそのものである。嵐は五人組であり、歌ったり踊ったり、バライティ番組も出演し、ドラマ映画も出ているし、特徴バラバラである。嵐が結団から、ずっと役割分担化をしてきて、当然昔の役割と現在の役割が変わってきたけど、そのような活動形は今まで変わってきてない。象徴として、嵐五人は、各の代表色を持っている。例えタップ担当でニュースキャスターを務めている櫻井翔は赤、芸術面豊富でメインボーカルを担当している嵐のリーダである大野智は青、また演技力高いで嵐のバライティ担当であるに二宮和也は黄色である。当然嵐のその色は各の役割分担とは関係ないし、ただ象徴としてのイメージだけだけど、嵐の五人はそれぞれの能力を生かしてそれぞれの役割分担があるという活動形は確定している。例えば知識豊富で冷静でロジック的な櫻井翔はまとめ役や司会進行役であるし、発想が豊富で繊細で始動力が高い松本潤は決まり役やコンサートの監督役に務めている。一方、芸術性が高い大野智は個展を開くことがあり、相葉雅紀のバライティセンスが優れているから個人バライティ番組を貰え、二宮和也は高演技で選ばれた故にハリウッドの映画に出演された。こんな嵐の五人は、その長い時間を渡って、たくさん役割分担を模索してきて、今の状態になってきた。そのため、現在の嵐は、異なる分野の仕事がますます増えるし、メンバそれぞれの特徴が発揮できるのため、仕事が高い効率で完成できるし、より多くのファンを引き取れると見られている。それはジャニーズ的のグループ制と呼ばれているものである。

３、日本組織の真髄：グループの統一化

前文で述べたことによると、ジャニーズのグループ制はその業界内で凄く素晴らしいイノベーション方針と見られるものである。能力が異なるメンバーが揃って、役割分担化して、より効率的に仕事を完成でき、より多くの分野に貢献でき、よりたくさんのファンを受け入れる状態になると見られている。そして、そのグループ制の素晴らしい点は、実はもう一つがあると考えられる。それは、グループの統一性であるもの。アカデミック的に言うと、それは日本組織における真髄であるもの。

日本組織であるものに対して、個人それぞれの「個性」は凄く重要だと思われている、なぜかというと、その「個性」と呼ばれるものは仕事の完成度と関係あるし、キャリアアップにもかかわる。しかし、これと比べると、組織内で最も重視しているのは、チームとして活動しているのグループワーク内、それぞれの個人はどのようにチームに融合し、「個性」を発揮し、チーム感を湧かせ、最後仕事を完成する、ということである。いわゆる、「個性」の重要さはグループに馴染むこととして表現する「統一化」である。それは、日本的組織によるグループ制の真髄であるもの。

しかし、その真髄による最大な困難点がある。それはグループによって、人によって位、その統一化は非常に時間がかかる。例えば、あるグループ内で ABC 三人がある。その三人にとって、お互いに共通点があるし、異なっている点もある。活動するのため、A の特徴は発揮するチャンスが高い、B の特徴でサポートすることができる、しかし、C の特徴はあまり使われることができない。その場合は長時間で調整する必要があるので、内部矛盾も出てるし、今後の発展方向や困難点も議論しなければならない。したがって、そのグループを存続したいのため、工夫しないといけない状態になる。最後でその困難点を乗り越えたグループは、成功に決まってると思われる。

芸能界の場合は、グループとして活動している芸能人はそこまで多くない。しかし、ずっとそのグループに属して、グループに馴染むまで一心で努力するの人は、必ず多くは言えないと思われている。そこで、ジャニーズのグループ制はその逆反映の一つとして見られている。卒業概念がないジャニーズアイドルはグループに属してから、普通にずっと続くことが決まっている。（過去のことを含め、脱出、解散の場合もあった。しかし、最近少なくなってきた）そしてタレントはグループのため活動してきて、個人成績よりグループを優先するのは、ジャニーズのやり方と見られている。その結果、仲良くグループは凄く人気出るし、逆に人気下落したグループも存在している。それは、ジャニーズは日本組織であるの一つの特徴と見られている。

4.2.3、アイドル雇用と市場影響：ユリカゴ→墓場（長期雇用形態とその市場影響）

ジャニーズの日本的組織特徴の三つ目のことは、マクドナルドのある方針であるもの。それは、ユリカゴから墓場まで。その言葉のもともとの意味は、長期ファミリー市場を狙うことである。ここで、ジャニーズの場合は、市場戦略ではなくて、雇用戦略と見られている。いわゆる、アイドルの長期雇用制度である。そして、この長期雇用制度による市場影響も会社の運営に対しては、非常に重要であるもの。

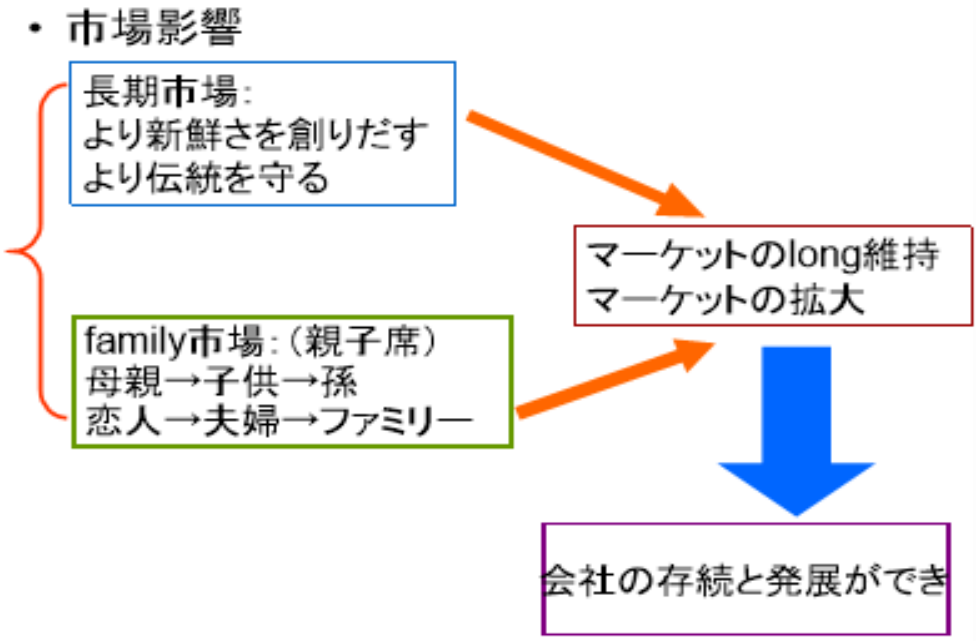
一般組織による長期雇用制度はある二つの特徴がある。一つ目は、安定性が高い、そのため社員と組織ともに成長しやすい、その結果社員は組織に対しての忠誠心が湧いて、組織は社員に対しての責任感も増えてきた。二つ目は、安定性が高い、成長ができ、忠誠心と責任を湧いた結果によると、そのため組織の変動が少ない、変化が増え、最後組織と社員のウィンウィン関係が達成することができる。

一方、芸能界の場合は、普通そういう関係を創りにくい。むしろそういう発想もなかった。しかし、ジャニーズは自社アイドルに対して、商品だけではなく、社員としても扱っているので、そのイノベーション的な長期雇用関係が築いてきた。そのため、ジャニーズの市場戦略はより優れていると思われている。いわゆるジャニーズのその長期雇用関係は、日本の一般市場に対して非常に大きな二つの影響を与えていると見られている。その一は、長期市場である。それは、ジャニーズの長期雇用制度のお蔭で、アイドルの存在形態は Jr.からデビューに至ってそして将来にも続いていくである。その場合は、ファンの行動として、そのアイドルは Jr.時代からずっと付いていくと、習慣としてそのアイドルの市場から出ることができなくなる。当然一人のアイドルにずっと寄せいるという結果はむずかしい。しかし、内部変動のことは十分高いと見られている。簡単に言うと、一人のファンは何人のジャニーズアイドルを好きになることができ、個人からグループ、一つのグループから全事務所まで、その市場は非常に大きいと考えられる。

その二つ目の市場影響はファミリー市場である。ジャニーズのコンサートに来てづれる人の中、親子が非常に多い。その原因は親子席というルールである。それはジャニーズのコンサートでは、9 歳以下の子供を連れていく場合、抽選で一部凄く良い席をご用意されている非常に魅力的なサービスである。そのルールの直接な影響と言えると、親ファンは必ず子供を連れていきたくなる。その影響で、子供がファンになる可能性は極めて高くなる。世代から世代に継続と、膨大な市場になれる。一方、男性ファンの当選率が高いのため、恋人同士と一緒にコンサートに行くの人も年々増えてき

て、そして結婚し、子供産んで、またファミリー一緒に現場に行くチャンスも増えてきた。当然コンサートだけではなく、グッズや番組もドラマも CM 代言品とともに、その市場の拡大は信じられないぐらい迅速と見られている。

その二つの市場影響のため、ジャニーズ事務所の市場維持戦力と拡大戦略は、極めて優れていると見られている。存続的な良い発展を見えていけそうだと思われている。



第五章、今後の予想

5.1、ジャニーズの現状と問題

簡単に纏めると、現在ジャニーズが抱えている問題点は以下となっている。

- 後継者問題

1. 誰をデビューさせるべき、Ｊｒ．はどう選抜
2. 個人タレントが増えてしまい、グループの重要性は下がっている？
3. ジャニーズの歴史におる伝統、上下関係とかの習慣は保つ必要？

- 市場競争問題

１．社内競争：グループ間の格差

２．社外競争：アイドル（例ＥＸＩＬＥ、ＡＫＢ４８）、役者

３．国際競争：韓流ブーム

5.1.1、後継者問題

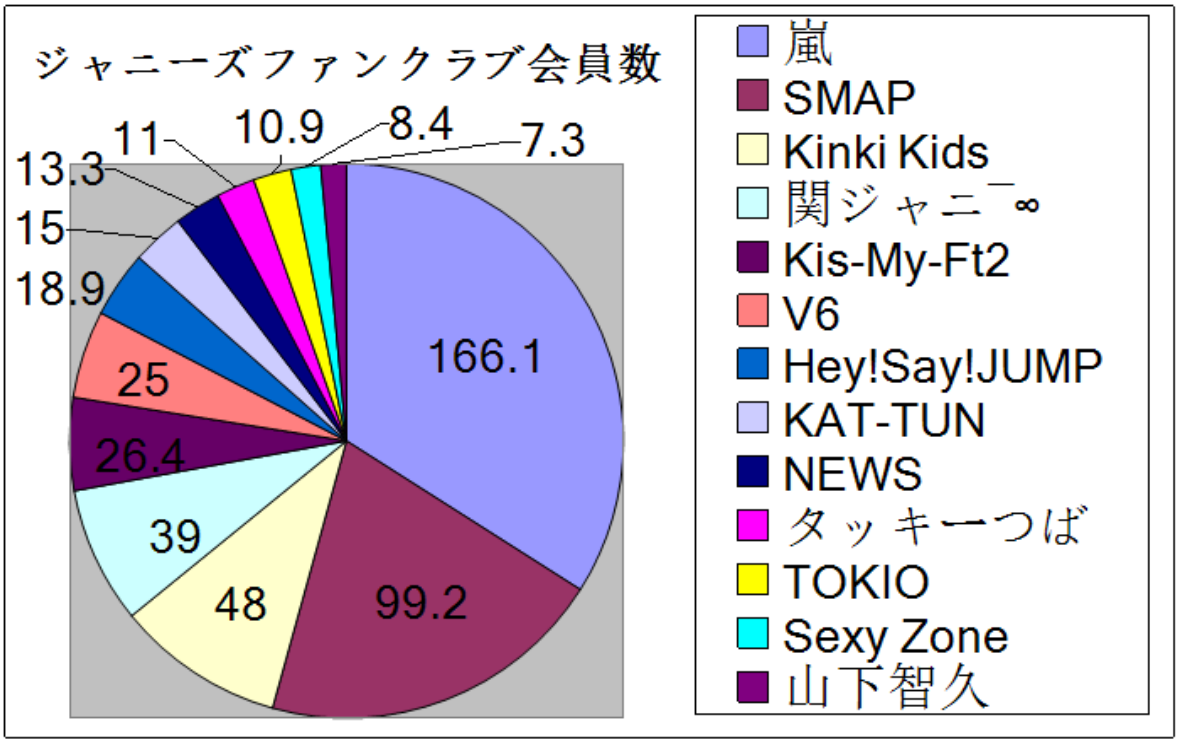
後継者問題と言えると、ジャニーズの内部問題と人材育成問題と見られている。現在、ジャニーズ事務所創業からもう 50 年経ってきた。計 14 のグループ、約 70 のタレントである。しかし、現在の Jr. 人数は公開していなかった。コンサートの状態から見ると、何百人がいると見られている。その Jr. 達は今後の発展は想像すらできないぐらい難しい。以前によると、ある時期のジャニーズ Jr. 内で、凄く上昇できる子とまぁまぁできる子と全然できない子の間は、激しの差が存在している。しかし、最近の問題は、優れている Jr. が溢れているので、誰をデビューさせるという問題になった。それは、90 年代末の黄金時代と似ている状況になってきて、非常に厄介なことと思われているそのため、今後事務所のやり方の差によって、アイドル達の行動も違うことになる可能性がある。事務所はグループ優先するのか、カリスマなタレントを優先するのか、これからの勝負となる。そして、各アイドル達も、自分の人生のため、いろいろ賭けているかもしれない。

一方、最近個人タレントが増えてきて、グループがなくしかし活躍できるという概念も増えてきた。それは、ジャニーズ方針に対して一体どのような影響が与えてるのか、少し関心を抱えている。

また、ジャニー喜多川さんの高齢にかかわる管理層の更迭、そのためジャニーズの伝統は一体どこまで守られるのか、事務所にもマスコミにも関係業者にもファンにも、大問題になれる可能性がある。ジャニーズ事務所はいわゆるジャニー喜多川さん一人で築いてきた組織というものであるので、50 年を経つと、既に昔とは違うから、今後その組織はどのように変化するのか、疑問と希望両方抱えている。

5.1.2、市場競争問題

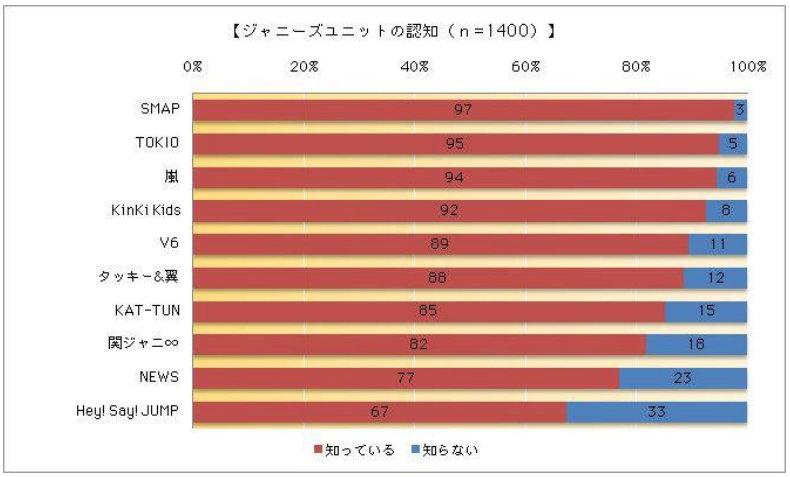
市場問題内最も疑問を抱えている一点とは、グル―プ内の格差である。現在ファンクラブの方は、少年隊以外（資料なし）のジャニーズファンクラブは個人タレント（山下智久）含めで 13 個、2 個以上ファンクラブを登録された人も含め、ジャニーズのファンクラブ総合会員数は、現在 500 万人数に近づいた。資料により、筆者自らのまとめとして、以下は現在のジャニーズファンクラブの会員数比較図である。

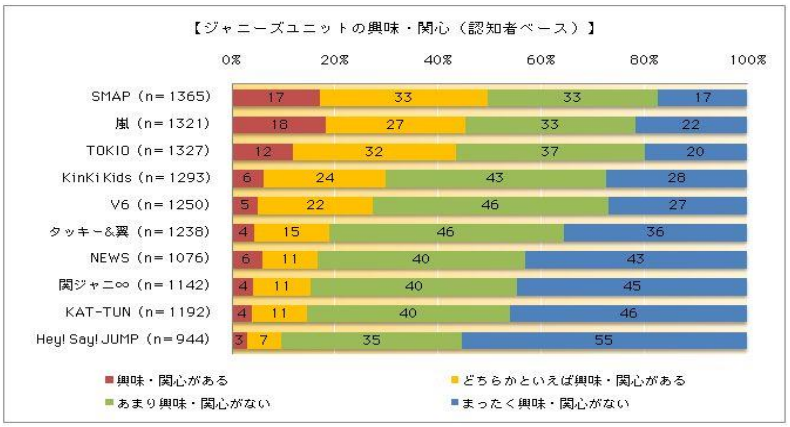


制作 by 著者

また、ジャニーズの認知度と活躍している領域による調査結果が、以下の図表によってあらわしている。

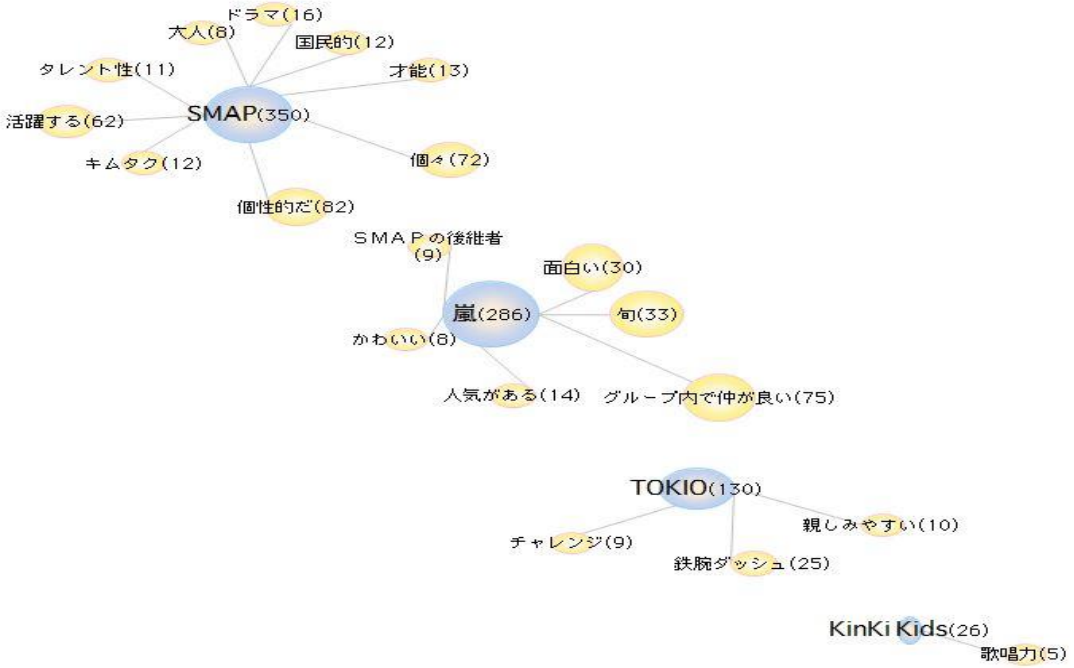
A、ジャニーズに対す認知と感心





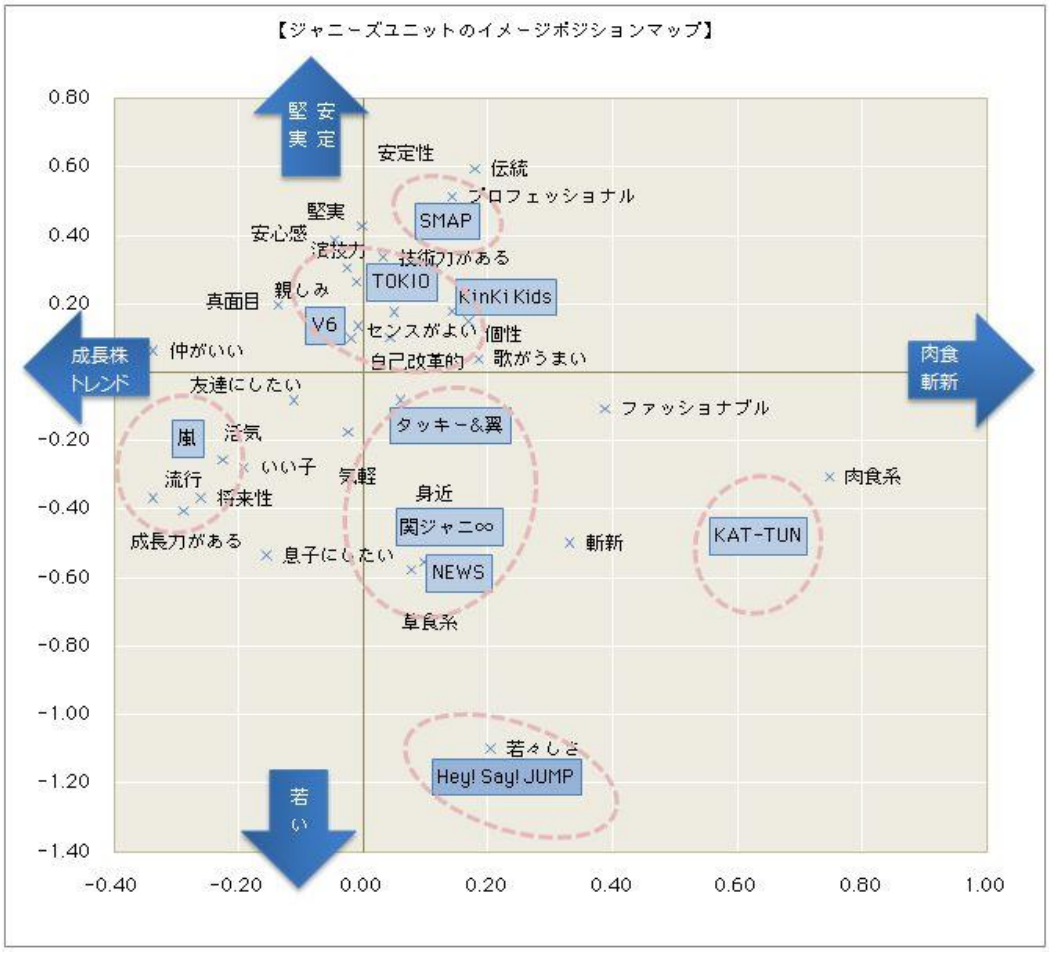
制作元 my アンケート（株式会社ドゥ・ハウス）

B、SMAP、嵐、TOKIO に対す評価



制作元 my アンケート（株式会社ドゥ・ハウス）

C、ジャニーズ各グループに対すイメージマッピング



制作元 my アンケート（株式会社ドゥ・ハウス）

以上の図表から見ると、ジャニーズ今の人気分布もわかっているので、その中、嵐は一番になってきた。その理由は、嵐の育成課程とグループ構成は、完全な日本組織におけるものと見られている、前文で既に分析した。二番は SMAP、長年間ずっとジャニーズ方針に従ってきた、ジャニーズ中のジャニーズと認識されている。20 年間近くの年末紅白歌合戦に出演され、キムタクのドラマ視聴神話、そのため全国の認識度はジャニーズの中に NO1.と見られている。また、2 名まで団員脱落の KAT-TUN は人気の下がるのは当然だと見られ、個人カリスマ性が凄いと見られる山下も、今後の上昇は難しいには過言しかしない。

これを見ると、ジャニーズ各グループの発展は大分違って、その格差は確実に存在していると見られている。確かに、年代差と能力差を含め、歴代のグループの中、発展の格差を存在するという現状があるとは当然だと思われている。しかし、現在一番人気の嵐とその同世代のグループの間に尋常じゃない格差があって、これに対して、マスコミも業界関係者はかなり心配をかけると見られている。また、その内部競争は各ジャニーズのタレントに対しても厳しい状況と考えられる。

二番目は社外競争である。現在のジャニーズは正直に言うと、男性アイドルの業界内

で確実にライバルがいないという状態になってきた。芸能界にももう既にハイレベルな存在をしているになってきた。しかし、今後のことはどのようなことが発生するのは、これは想像につかない。例え、2005年ぐらいデビューしたAKBグループは、現在AKB48、SKE48、NMB48などを含め、計七個のグループを存在しているし、総売上数は著しく膨れ上げているし、様々な分野で全世界で活動している。特に日本の売上市場に対して、アイドルグループとして、ジャニーズの唯一のライバルである。また、男性の方は、EXILEの存在感はだんだん明らかにしてきた。当然EXILEの路線はジャニーズとは全然違うのに、しかし、ダンスの専門パフォーマンサーを集まって、更にイケメンのメンバを募集してきて、ドラマや映画もCMもますます活躍している彼達は、その市場に対して、確かに強力な相手と見られている。特にグッズとCD市場である。

もう一つ重要な競争相手は、海外のアイドルや芸能人たちである。歴史の要因によると、従来日本人は外から入り込んた要素に対して、受けいりにくい気分を抱えていてきた。しかし、芸能界内海外をマネする、特に欧米をマネする風潮がずっと盛んでいてきた。ジャニーズも、ジャニー喜多川さんは米国舞台や芸能の影響のため、ジャニーズのパフォーマンスを創ってきた。近年の日本は、韓流ブームが盛んで、韓国の芸能人はますます日本に来て、日本で芸能事業を築いてきた。その一部はむしろ韓国市場を捨てて、完全に日本中心になってきた。特に韓国の男性アイドルグループ。日本をマネしてパフォーマンスされたその市場は、なぜ日本に攻略できるのか、疑問を抱えている。

5.2、可能対策

以上の問題点によると、ジャニーズの発展は確かにまだまだ成長空間があると見られている。今後今までずっと保ってきた自社方針を継続していくと、育成方法的、組織構成的、そして市場対応的、三つの方向で頑張っていたら、更にジャニーズ帝国を拡大できると思われている。しかし、以下の方法はいわゆる筆者自ら考えた自己的な構想であって、事務所とは全然関係ないので、提案として述べさせていただく。

5.2.1、育成方法の調整

従来のジャニーズは前文で十分解説していた通り、日本の選抜式と英米の階段式、その両方の育成方法を融合し、ジャニーズ的なアイドル育成教育になってきた。現実から見ると、アイドル育成としてその方法はもう十分だと考えられる。しかし、ジャニ

ーズのタレントは、ただのアイドルとは言えないから、役者歌手として活動しているタレントはたくさんいると思われている。そのタレントのため、また多くのジャニーズ Jr. の将来のため、もっと専門的な育成をする方が良いと思われている。
そうでいうと、筆者は以下の二つの提案を考えてきた。
１、学校しかし作る、系統的に「本物のジャニーズ」を育成
２、Jr. に対して、専門の演劇や芸術学校に通わせる。また、アイドルの枠を崩し、大卒後もジャニーズになる。

実際その二つの提案は、一つの真意である。それは、ジャニーズ Jr. 達は本格的専門的階段的系統的な教育を受けるはずだと思われている。実際ジャニーズの実績から見ると、単純にアイドル活動をやっているタレントはほぼいないから、普通に全てのジャニーズタレントたちはそれぞれの得意分野があって、その分野で自分の能力を発揮して生かしていくである。更に特技や得意分野を持っていないタレントは、より多いの仕事をえるため、わざと新しい分野に挑戦して、新しい自分を創ってきた。それは、ジャニーズの内部競争という要因である。

5.2.2、組織的の調整

ジャニーズのアイドル形態は、普通にグループとして活動していると見られている。これはずっと昔から継続してきた伝統である。しかし、ある意味で、ジャニーズのタレント達は「グループ」という形に縛られていると思われるので、個性もでれないし、退団もできないし、何をしてもグループを優先し、自分の実績よりグループのパフォーマンスは大事だと見られている。当然、これはジャニーズ的の組織構造と考えたら、普通と思われる。しかし、外部から見ると、実際そのやり方は間違っているかどうか、極めて疑問を抱えている。

近年、芸能界の状況は大きく変わってきたから、昔のやり方を守るのは当然大変重要と思われている。しかし、そのような時期で、変動による組織改革や方針改善を行るのは、時代の変わるに従わなければならない行動である。そのため、ジャニーズも時代を読んで、相応の対策をした方が良い思われている。当然、そういう改革はジャニーズ事務所は行たことがあるし、もちろん全てのグループに対してそういう改革を実施するわけではない。なぜながら、ジャニーズの場合は、やはり伝統を守ることは第一で、その上で、グループ制によると上手くいけない個人やグループに対して、改革すべきだと思われている。

それに対して、以下の改善案を提出させていただく。
１、グループの再構成、新しいグループと同時、個人タレントも創りだす
２、上下関係を崩し、先輩後輩交替（仕事の入れ替わり体験）

グループを結成するとき、まだ小さいのメンバーたちの状況がわかっていなかったから。そして時間を経って、年を取って、そのメンバーたちはお互いに合うか合わないか、既にわかってきと思われている。その時、無理やりそのメンバーたちを組んで、個性を消して、お互いに仲良くさせるというやり方は絶対あると思われている。

しかしその一方、メンバたちの心の中の傷がどんどん広がっていくし、成績に対しても質も量も出ることができないし、そのグループはもう名ばかりの存在になったと見られている。そのようなグループや個人に対しては、既にくっつくことが必要がないと思われている。むしろグループを再構成し、グループメンバの特徴による再配置し、今後の発展によって個人タレントを創り出ししかし適切な考えだと見られている。

5.2.3、市場対応の調整（ファンニーズにおける市場対応）

現在のジャニーズはほぼ市場を獲得することがいらないぐらい順調に発展してきたと見られている。しかし、前文での分析によるとジャニーズの二大市場は、近年芸能界の激しい変化によると、市場競争も激しくて、既に昔のような市場は完全に確保できない状態になるという可能性がある。当然、伝統の市場を守ることが必要と決まっていることである。しかし、その市場変化による理由で、ある新しい市場を探すのは、目の前のやるべきことだと思われている。

ここで、個人の提案を提出させていただく。
１、選抜に戻る：例ジャニーズの総選挙
その目的は、ファンやマスコミなどが市場によってジャニーズの人気グループや個人タレントを決めるである。確かにそのような総選挙を行うと、ジャニーズの伝統と方針、そして今まで築いてきた組織や構造は全部崩していくと思われている。しかし、現在のジョニーズに対して、それは徹底的な改革の一つと見られている。当然その後「旧いジャニーズ」という概念は多分なくなるという可能性が高い。しかしながら、「新しいジャニーズ」が誕生になれると見られている。
２、ファンクラブ制度一部廃止、供給バランスの再調整

現在のジャニーズファン達は、コンサートや番組協力やイベントを参加するのため、そのタレントやグループのファンクラブを入会しないといけないので、そして抽選によるとチケットが当たって、参加権を貰うことができると見られている。しかし、各グループの激しい人気格差によって、その確率の差も非常に大きいである。長時間チケットを与えられない場合は他の人を頼んでどんどん入会する人が増えてきたと見られている。そのため、クラブの人数が膨大になってきて、抽選の当たる確率はますます低くなる可能性は非常に高いと思われている。その結果、本当にそのタレント達を好きになっているファン達は退会になる可能性は十分高いと見られている。その上、極めれいる悪循環に陥ってきたと見られ、会社にもタレントにも、非常に悪い状態になってきた。

このような話によると、ファンクラブを再調整し、市場バランスを再構成をするのは、目の前のやらざる得ないこととなってきた。提案として筆者個人的な意見は、例えタレントやグループ別のクラブを廃止し、ジャニーズ全ては一つクラブとして入会する。そして、年一回の単位で、希望によってクラブを移動することができる。それは新しいのファンを生み出すの可能性が高いと思われる。そして、会員持ちのポイントを貯められるメンバーカードを創って、毎回のグッズ消費や CD を買うこと（枚数回数にかかわらず、種類とバラツキに関する）によってポイントを貯める。それによって、ジャニーズのベテランや真のファンと一般的のファンと他の理由で入会する人を区別して、ランクを付け、コンサートや番組協力などのイベントチケットを配布することになる。当然結果として現在の格差をどれぐらい改善できるのかまだわかりにくいのに、しかし、その行いは現在ジャニーズの枠をぶち壊してきたのは事実である。今後の方向を期待できると思われる。

5.3、本研究の限界と今後の方向

以上の分析と提案は、いわゆる筆者自己の考えであるもので、ジャニーズの内部資料は凄く少ないし、調査も難しし、インタビューも無理であるし、それはジャニーズ研究内で、定量による市場分析と本研究は根本的の違いである。ここで論じできた全ては、限られている資料により、筆者と指導先生の経験により、論理的な分析による分析型修士論文である。したがって、本研究は今後ジャニーズの発展によって、組織改革という方向になる可能性も高いと見られている。

参考文献

ア）大藪　毅（2009)『長期雇用制組織の研究――日本的人材マネジメントの構造』中央経済社

イ）小菅　宏（2012)『アイドル帝国ジャニーズ 50 年の光芒――夢を食う人ジャニー喜多川の流儀』宝島社新書

ウ）金子　健（2007)『ARASHI 嵐 Bangbang!』アールズ出版

エ）金子　健（2005)『仁くん＆亀梨くん――努力の天才と才能の』アールズ出版

オ）北 村 憲 昭『君達の音楽は間違っていないか。――音楽のマニュアル』第二部第一章①徒弟制度＜http://www.geocities.co.jp/Berkeley/7129/＞（2014/11/18 アクセス）

か)「日本アイドルビジネスの歴史的変遷と現在」
＜http://d.hatena.ne.jp/kazukan/20090121/1232559536＞（2014/6/15 アクセス）

キ)「アイドル産業-その経済特性と社会制度、分析と政策-」
＜http://www.ppp.am/p-project/japanese/paper/sakai-paper.pdf＞（2014/6/15 アクセス）

ク)「デビュー11 年、「嵐」がトレンドとなり、SMAP の後釜に？～男性アイドルグループ　嵐（大野、櫻井、相葉、二宮、松本）に関する自主調査　発表！」
＜https://reposen.jp/3002/8/92.html＞（2014/6/15 アクセス）

ケ）川嶋將生　「芸能伝承―家元制度と非家元制度－芸能伝承－」
＜http://www.arc.ritsumei.ac.jp/coe/tyukan/05.pdf＞（2014/11/15 アクセス）

コ）外資系戦略コンサルタントの視点から見たアイドル・ビジネス
＜http://cute-strategy.blogspot.com/＞（2014/10/13 アクセス）
＜https://www.facebook.com/cutestrategy/timeline?filter=1　＞(2014/10/13アクセス)

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導を頂いた修士論文主査担当の指導教員、大藪毅先生に感謝致します。そして、副査を担当して頂いたマーケティング部の井上哲浩先生と財務部の齋藤卓爾先生、お二人の優しいご指導と有益な助言を頂くことに感謝致します。また、日常の議論を通じて多くの知識や示唆を頂いた大藪研究室の皆様に感謝します。

まず、本論文を作成するにあたり、主査を担当して頂いて、自己ゼミの指導教員の大藪先生から、丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。先生のお蔭て、KBS に申し込んだ上、先生のゼミに入れることに大変感謝致します。そして、自己趣味程の修論作りに対して、先生から大変有意義なご指導と温かいご支援を頂いたり、ここで心から御礼を申し上げます。

次に、経営管理研究科の諸先生たちに礼を申しいたします。特に本研究に際して、副査を頂きました井上哲浩先生と齋藤卓爾先生に深謝いたします。最初全然違う分野の先生を頼みたかったの件を申して、主査の大藪先生と相談し、慎重に考えた上、お二人の先生を決定しました。そして、お二人には、大変寛大に本稀少的な研究を受け入れて頂き、極めて有益なご指摘を下さいました。ここで、感謝の意申し上げます。

また、ゼミの方向を語って頂いた先輩たちとその一年ゼミで討論を通して様々な意見や提案を下さった大藪ゼミの皆様（永山さん、河野さん、畑澤さん、馬さん）に感謝いたします。さらに、さまざまな貴重な意見を頂いた M36 の同級生たち、ずっと支えてくれた応援してくれた留学生の友達、そしていつも希望と勇気、憧憬と夢を頂いた本研究の主体、ジャニーズのタレント達にも、深く感謝いたします。

最後、貴重な二年間いつも温かくて見守ってくれた家族と友人に、特に経済的にも生活的にも精神的にも大変支援してくれた母親に、心から感謝を申し上げます。